



明治大学

農学部

大学院農学研究科

SCHOOL OF AGRICULTURE

「個」を強くする大学。

MEIJI
UNIVERSITY
2026

“Life” makes the world go round.

学部長メッセージ

日々の営みを支えつつ、社会課題の解決に寄与。 「農」の学びがもたらす恵みを、より良く生きる糧に。

農学は食料生産にかかわる研究を行う学問として始まり、現在では食料を食べる私たちや食料生産を行う生物の「生命」、たくさんの生命が暮らす地球の「環境」について幅広く考える学問に発展しています。そこで、本学部では「食料」「環境」「生命」の3分野を主な学びの柱とし、様々な視点から教育・研究を展開しています。

研究領域の幅広さは本学部の大きな特長で、「より多く収穫できるよう農作物を品種改良する」「微生物の細胞から命の仕組みを解き明かす」「環境に優しいプラスチックを開発する」などといった理系分野の研究から、「地域振興に貢献できるような生産・流通システムの提案」といった文系分野の研究まで、様々な研究が行われています。このように多彩なアプローチで各分野をリードする研究を行い、日常生活を豊かにするものから社会課題解決につながるものまで、幅広い領域で社会に貢献することを目指しています。

実践的な学びの機会の充実に力を入れているのも

本学部の特長です。ほとんどの学生が1年次に黒川農場での農場実習を経験し、以降の年次でも学科や研究室単位での各種実験・実習、フィールドワークに参加しています。卒業研究や大学院での研究は、充実した研究施設・設備を駆使して活発に行われています。こうした実践的な学びによって、講義で得た専門知識がしっかりと身につき、様々な問題解決に使えるようになると期待しています。またコロナ禍の収束により、海外での教育・研究活動も順次再開しています。留学を通して海外の農業文化を学んだり、留学先の大学で研究室に所属して専門的な学びを深めたりしており、学会発表で海外に行く学生も多くいます。

「農」の学びは、社会のあらゆる事象とかがわりが深く、皆さんの日常と密接に結びついているものです。本学部で得た知識・経験を糧に、人生の様々な場面でより良い選択・判断が行えるように成長していただけたら、こんなにうれしいことはありません。

農学部長

竹中 麻子（たけなか あさこ）

1997年博士（農学、東京大学）。専門分野は農芸化学、食品生化学。主な研究テーマは「食餌タンパク質に関する分子栄養学の研究」「ビタミンE摂取と動物の情動行動に関する研究」。代表的な著書に『分子栄養学』（共著・化学同人・2005年）『わかりやすい食品化学』（共著・三共出版・2008年）がある。

動画と記事で学部を知る
「Step into Meiji University」も
ぜひご覧ください



CONTENTS

学部長メッセージ	01
農学部概要	03
農学部の特色 ～ 個を育てる農学部の学び ～	
① 将来進むべき道を選択する際の 大きなきっかけとなる実験・実習授業	05
② 文系でも少人数教育や実習を重視する 一食料環境政策学科のプログラムー	07

③ 教養から実習、外国語まで幅広く学ぶ	09
農学部のカリキュラムと4年間の流れ	11
学科紹介	
■農学科	13
■農芸化学科	19
■生命科学科	25
■食料環境政策学科	31

総合科目	37
生田キャンパス	40
研究施設・設備	41
明治大学黒川農場	43
国際交流（留学制度）	45
大学院 農学研究科	47
サポート体制	50

就職支援・資格取得	51
入試情報	52

※登場する学生の在籍年次や卒業生の肩書等は2024年度のもので
2024年以前撮影の写真も掲載しています。

明治大学農学部 の歩み

食料・環境・生命をキーワードに 社会に貢献できる人材を育成する学部

明治大学農学部は、1946年に前身の明治農業専門学校が設立されて以来、時代と社会の要請に応じて改組・拡充を進めてきました。1949年新制大学発足時に農学科と農業経済学科の2学科を設置し、1953年には農産製造学科（1968年農芸化学科に改称）を増設。さらに2000年、生命科学科を新設して現行の4学科体制となり、2008年、農業経済学科を食料環境政策学科へと改称しました。

農学部では食料・環境・生命をキーワードに、自然と人間社

会の調和を図り、生命を理解し、地球的な食料・環境問題の解決に貢献できる基礎力と応用・発展性のある人材の育成を目的とした教育と研究を行っています。また、自然科学系教員と社会・人文科学系教員の協力のもと、文理融合型の教養教育と専門教育を実施する体制を整えているのも本学部の特長です。4つの学科は独自性を保ちながら有機的関連を持ってカリキュラムを編成しており、専門分野のみでなく、様々な分野を学部内で学ぶことができます。

生田キャンパス内の最先端の研究機器と実験圃場、2012年4月にオープンした川崎市黒川地区の明治大学黒川農場など、実験・実習を行う施設も充実しています。

[農学部の3つのキーワード]

食 料

人は多様な生物を「食べる」ことによって生きています。様々な環境で健全な作物を効率よく生産すること、優良な性質を受け継いだ健康な家畜を育てること、発酵等を利用して食品を加工することは、人類が未来にわたって生存するための必須条件です。生産者の生活を支え、安全な食料を効率的に流通させることも大変重要です。



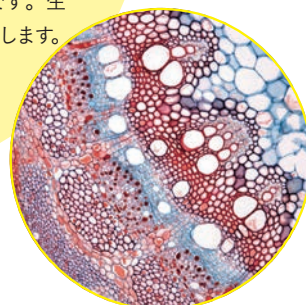
環 境

生物は周囲の環境とのかかわりによって生きています。水と光は生命の源ですが、多すぎても少なすぎても生物は育ちません。地球規模の気候変動や災害は、人に新たな対応を迫っています。環境ストレスに耐える作物、環境に負荷をかけない循環型の社会、植物や微生物を利用した環境改善や快適な空間の創成が求められています。



生 命

生物の仕組みはDNAやタンパク質などの分子レベルで理解することができます。食と環境の問題解決には、生物がいかに生きているか、体の中で何が起きているか、環境やほかの生物とどうかわっているかを知ることが必要です。さらに生命を巡る地域や国際社会の動きを知ることも大切です。生命の理解は、人の健康維持や医療にも貢献します。



明治大学農学部

School of Agriculture

農 学 科

Department of Agriculture

農 芸 化 学 科

Department of Agricultural Chemistry

生 命 科 学 科

Department of Life Sciences

食 料 環 境 政 策 学 科

Department of Agri-food and Environmental Policy



明治大学大学院 農学研究科 (博士前期課程・博士後期課程)

Graduate School of Agriculture

農 芸 化 学 専 攻

Agricultural Chemistry Program

農 学 専 攻

Agriculture Program

農 業 経 済 学 専 攻

Agricultural Economics Program

生 命 科 学 専 攻

Life Sciences Program

大学院 農学研究科の歩み

農学研究科は、1959年の農産製造学専攻の設置とともに生田キャンパスに発足しました。1978年の機構改革に伴って、農産製造学専攻を農芸化学専攻に改称し、新たに農学専攻・農業経済学専攻を設置しました。さらに2003年に生命科学専攻の設置により現在の4専攻制となりました。各専攻には、博士前期課程・博士後期課程が設置され、研究活動に邁進しています（詳しい情報は「明治大学 大学院ガイドブック」をご覧ください）。

明治大学農学部の強み

4つの特色で 「全人教育」を推進

Point 1 現場を通じて理解を深める 多数の実験・実習

1・2年次は、農学全般を幅広く学ぶことができるように専門科目と総合科目を並列し、多数の実験・実習を設置。基礎をしっかりと学んだ後に段階的に専門性を高められるように科目を配置しています。

▶詳細はP.05

Point 2 大学付属の黒川農場で行う 全学科共通の農場実習

「実地を重視し、実地を通じて理解を深め、研究を進める」という農学の基本的性格を具体的に展開・経験できるように、全学科共通の科目として1年次に明治大学黒川農場における農場実習が設置されています。

▶詳細はP.09

Point 3 3年次から始まる卒論関係科目 文献調査・特別研究

3年次からは、専門とする研究分野に関係の深い科目を中心に、文献調査や特別研究など、ゼミ・研究室にかかわる科目や活動が増えてくるため、学生の学びへの主体性・積極性が重視されます。

Point 4 最新鋭の研究施設と設備 高度な先端研究

バイオサイエンスをはじめとする科学・技術の革新を常に踏まえ、最先端の農学研究に要求される高度な研究機器類や施設を多数設置し、研究体制の充実を図っています。

▶詳細はP.40

将来進むべき道を選択する際の 大きなきっかけともなる 実験・実習授業

食品化学・ 食品分析実験

座学だけではなく実験・実習の授業が多いのも明治大学農学部の特長です。様々な実験を体験する中で、自分の興味の対象、進むべき道がより明確になっていきます。

食品成分と我々人間のかかわりを理解し、 実験を通じて実践的な知識を身につける

農芸化学科では1・2年次に全員参加で、化学実験、微生物学実験、生化学・物理化学実験、有機化学・有機分析実験、バイオテクノロジー実験と多種多様な学生実験が行われています。さらに、環境を対象とした環境化学実験、環境分析実験や食品を対象とした食品化学・食品分析実験も行われています。食品化学・食品分析実験では食品の栄養成分を定量しその結果を各自で評価します。また、各自の味覚評価と味覚受容体の遺伝子解析を行います。具体的には食品のタンパク質（一般成分）やビタミンC（必須生理機能成分）の栄養成分を化学的手法で定量します。さらに、食品の安全性に影響する酸化した油脂の分析や食品の保存性とかかわる水分活性を測定します。また、学生各自による甘味・苦味等々の五味識別の官能評価試験と分子生物学のPCR手法を使った苦味受容体の遺伝子解析を行います。このように、食品成分と我々人間のかかわりについて今まで座学で学んでき

た学問を、実験で体験してレポートにまとめることで理解を深めます。

学生実験では、自分の手で行う体験を通じての学びを重視しています。単に言われた実験操作をやる作業ではなくその操作の目的意味を考え行動できる個の能力を養います。さらに、社会に貢献するためにはチームの一員として個の能力を発揮できる必要があります。個人・ペア・グループでの実験が配置され、実験操作を進めるうえで話し合う機会を作っています。さらに、実験レポート作成においても自分が担当した部分を調べ評価するだけでなく、グループ全体での議論も必要になります。このようにコミュニケーション能力を鍛える多種多様な場が用意されています。

1・2年次の学生実験は、3年次から18の研究室に分かれて各自が卒業研究を行うのに必要な実験技術の基礎を学ぶだけでなく、自分の学問的興味や社会的興味がどこにあるのか、自分に合う分野を判断するための基盤となります。実験にはものごとを実現するための「考え」→「行動」→「確認」が詰まっています。これらの経験は、将来、社会に貢献するための実践的なスキルを身につける大きな一歩となるでしょう。

MESSAGE

中村 卓 教授

「食料」「環境」「生命」の分野を学びの柱にした農学部には79の研究室があり、学びに多様性があります。さらに、総合大学として課外活動の多様性が増え、皆さんの人生の選択の幅を広げ、可能性を高めることができます。また、3年次の初めから卒業研究を2年間行うのは他大学にはない特徴です。私の研究室では「おいしさを食品構造から追究」しています。人が評価するおいしさと、物質としての食品、この二つを結びつける理系文系横断のアプローチが必要です。皆さんも、単に得意科目だけでなく興味のあることとどのようにアプローチするか視野に入れて大学進学を考えてください。

PROFILE

京都大学大学院農学研究科（食品工学専攻）博士課程修了。研究テーマは「おいしさを食品構造から追究」、特に食感について研究。



全員参加で様々な実験を行います。まずは実験器具に触れることで正確な使用方法を習得した後、学生たちが主体となって話し合いや試行錯誤を重ねながら、グループワークで実験に挑みます。「食品化学・食品分析実験」は農芸化学科1・2年次の実験の集大成であり、ここで学ぶ知識や技術が後の本格的な研究につながるため、学生たちは真剣な眼差しで取り組みます。

STUDENT VOICE

普段目にするものを深めることで 楽しく学びを得る

農芸化学科2年
関根 一翔
埼玉県立熊谷高等学校
卒業



農芸化学科2年次の秋学期には食品化学実験があります。学生実験の最後の実験として、今まで行ってきた動作や様々な器具をうまく使うことによって、危険な試薬を扱ったり、丁寧に効率よく実験を行ったりすること、実験で得られた様々な数値を計算して結果から考察を広げていくことが求められます。1年次や2年次の春に行った実験とは違って、普段スーパーなどで目にする

食品を用いて自分自身で成分や機能を調べるため、授業で学ぶよりも深く理解でき、食品への興味が高まります。また、なぜこのような結果になるかをその食品の性質や作業の過程を踏まえて考察することで様々な気づきがあり、ただ学ぶだけの実験から心から理解できて楽しめる実験を実現することができます。

PICK UP

その他の注目授業

農学科 農学基礎実験

農学科
糸山 享 教授



農学基礎実験で学ぶのは、農学科で行う幅広い分野の科学実験の基礎。試薬を用いた化学実験、野外での個体群の調査など、自らの目で見て、手を動かして取り組むため、実験の楽しさを感じながら、大学での学習・研究に主体性を持って臨む姿勢を身につけられます。また、多様な分野の研究に触れることで、自分の興味や進むべき方向性について考えられるようになるでしょう。今後の専門性の高い実験科目や卒業論文にもつながってほしいと思います。

生命科学科 生命科学実験 I～IV

生命科学科
紀藤 圭治 教授



本実験科目では、動物・植物・微生物を対象とし、分子レベルから個体全体までを取り扱う様々な実験手法を学びます。グループ単位で実験を進めることが多いですが、自分自身で主体的に実験に取り組み、その手順や得られた結果を自ら考察することで、実験の基本原則や実験を進めていくうえでの基本的な考え方を身につけることができます。本授業で培われた素養は、その後の研究室活動にも大いに役立つことが期待されます。

文系でも少人数教育や 実習を重視する — 食料環境政策学科のプログラム —

少人数ゼミと 多彩な実習科目

農学部には文系学科として食料環境政策学科が設置されていますが、ここでも学科独自のファームステイ実習や、他学科同様の農場実習など、現場での実習を重視しています。また、少人数制のゼミが充実しているのも食料環境政策学科の特長です。

少人数ゼミに加えて、農場実習、 ファームステイ実習など多彩な実習科目を用意

食料環境政策学科では、まず1年次春学期に、大学で学ぶうえでの基礎の基礎、いわば学問リテラシーを身につけることを目的とした「基礎ゼミ」を実施します。続いて2年次秋学期には、各教員の専門とする分野で、課題を発見・考察し、解決策を探るために何をすべきかについて、能動的に学ぶ「プロジェクトゼミ」があります。緊密な指導と学生の積極的な参加が特長で、3年次からのゼミ活動に備えるものとして位置づけています。そして3・4年次には「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に参加します（研究室に所属）。活発なディスカッションの場を設けるとともに、3年次からは研究室単位でフィールドワーク実習等を行い、4年次には教員の指導を受けながら、大学における学習の集大成としての卒業論文の完成を目指します。一方、実習科目としては、1年次に黒川

農場での農場実習、2年次にはファームステイ実習を実施します。国内の10カ所程度の研修地の中から1カ所を選び、農家の方々と起居寝食を1週間ともにするファームステイ実習は、経営・家計・生活を総合的に把握するのに役立つだけでなく、農村生活の実情に触れ、経験を豊かにしてくれます。希望者は、さらに海外での実習「海外農業体験」（主に中国の農業企業における研修）にも参加可能です。3年次に入ると、研究室ごとに「フィールドワーク実習」として、実際に地域に赴いて調査を行います。この実習は、調査方法を学び、対象地域の実情を知るとともに、データを収集し分析する能力や問題解決に必要な応用力を身につけることを目的としています。さらにレポートにまとめることを通して、表現能力の向上を図ります。積極的な学生は、加えて「キャリア探求実習」にも参加しています。キャリア探求実習は、学生の自主的な研修を単位化するものであり、いくつかの研修先については大学側からの斡旋も行っています。



MESSAGE

本所 靖博 准教授

ファームステイ実習は1週間農家等に宿泊し、農作業に従事して農家生活や農村社会の実態に触れる実習です。農家と寝食をともにするこの実習は学生の人生にとっても貴重な経験となり、学生の学ぶ姿勢が変わる転換点になっています。また、フィールドワーク実習では、農村地域に足を運び、自分たちで調査を行い、対象地域の実情を知るとともに、収集したデータを分析し、調査結果をまとめ、社会課題を解決する力を身につけます。当学科の特長でもある教員と学生の接点が近くなり、学生が成長する機会となっています。

PROFILE

1992年明治大学商学部産業経営学科卒業、1994年明治大学大学院商学研究科博士前期課程修了、1997年同博士後期課程単位取得退学。専門分野は持続可能性の会計学。

STUDENT VOICE

食料環境政策学科4年
小口 はな
東京都私立錦城高等学校
卒業



生産現場の体験と親身な指導が魅力の 食料環境政策学科

食料環境政策学科の大きな特長は、現場体験の多さです。1年次の農場実習、2年次のファームステイ実習、3・4年次のフィールドワーク実習から、生産の基礎や農業の実態を知ることができ、座学の講義だけでは得られない知識が学べます。実習での経験はその後の学び方や考え方を大きく変えるものになりました。また、教員との接点が多いことも良いと

ころです。1年次から少人数のゼミ形式講義が設置されており、学生と教員がコミュニケーションを取る機会が多く設けられています。3年次からはゼミに所属し、担当の先生のもと興味のある分野についてさらに深く学ぶことができます。どの先生も親身になって指導してくださり、私たち学生のやりたいを応援してくれる学科だと強く感じています。



野菜や水稲、果樹の生産から、養豚や酪農まで、実習内容は多岐にわたります。



PICK UP

注目授業

プロジェクト ゼミ

食料環境政策学科
小田切 徳美 教授



食料環境政策学科では、毎学年、ゼミを履修することができます。1年次は基礎ゼミ、2年次はプロジェクトゼミ（プロゼミ）、そして3・4年次はリサーチゼミと、いずれも10名前後の少人数教育の場となります。中でもプロゼミでは、学生が主体となり、具体的な「プロジェクト」を実践します。たとえば、私が担当するプロゼミでは、特定の自治体の「ふるさと納税」のありかたを提案する活動を行っています。返礼品競争がしばしば問題となる制度ですが、むしろ寄付者が地域の「関係人口」となるために、どうしたらよいか。地域の魅力の発掘からはじめ、具体的な製品の提案まで、毎年とてもユニークな提案が行われています。



教養から実習、 外国語まで幅広く学ぶ

黒川農場 農場実習

農学部では、9割以上の学生が1年次に「農場実習」を体験します。自らの手で作物を育てる中で、学生たちは生命を育むことの楽しさ、難しさに気づき、農学を学ぶ本当の意味を知ることになります。

生産現場を知ることが 農学を学ぶスタート地点となる

農学部全学科共通の科目として1年次を対象に開講されているのが、黒川農場で行われる「農場実習」です。入学して間もない学生たちに、教科書や文献だけでは絶対に知ることのできない、農学のベースとなる「生産現場」を知ってもらうために設置されているのが、この授業です。

実習は教員だけでなく、農場職員、現場経験を持つ嘱託スタッフたちの協力のもと行われるため、農作業に不慣れな学生たちでも安心です。最初は泥だらけになることに抵抗を感じていた学生も、すぐに作業に夢中になり、徐々に農業のおもしろさに引き込まれていきます。選んだ学科によって環境、食料、生命と専門分野に違いはあるものの、農学すべての基礎となるのは「命を育む」という意識です。それを現場で身をもって体験することで、農学を学ぶ目的や意味がおのずと理解できるようになっていきます。



MESSAGE

岩崎 泰永 教授

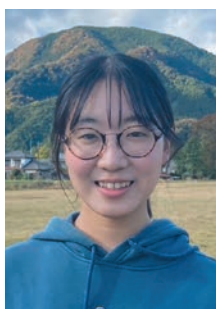
農場実習では、播種、定植、栽培管理、収穫などの基本的な作業に取り組みます。実体験を通して基礎的な技術を修得することはもちろん大切ですが、作物の栽培方法や利用方法などを自分で調べ、考えることを重視しています。また、知識や技術を身につけるだけでなく、仲間と過ごす時間のなかで農業の楽しさを知ることも貴重な学びです。雨が降ったり、暑かったり、寒かったり、大変な時もありますが、みんなで協力して収穫した野菜を調理して味わうおいしさは、さっと格別だと感じることでしょ

PROFILE

1988年東北大学大学院農学研究科修士課程修了。2000年博士（農学）学位取得。民間企業、国公立農業研究機関などを経て、2021年より現職。専門は植物栄養学、農業工学。

STUDENT VOICE

食料環境政策学科1年
伊東 奏音
宮城県仙台第二高等学校卒業



生産現場での実践的な学びを通し、 農業への理解を深める

明治大学農学部の学生の多くは1年次に農場実習を履修しています。実習では、作物の播種から収穫、さらに加工まで体験することができます。私のクラスでは、コマツナの播種やピーマンの仕立て、トマトの収穫など様々な種類の作物を栽培しました。加工実習では自分たちで収穫したブルーベリーを使ってジャムを製造します。自らの手で作物に触れ、成長過程を間近で見る経験は、農業

の魅力や大変さを肌で感じ、生産者の立場から農業を考えるきっかけになりました。さらに私は、試行として行われている農場実習発展編にも参加し、有機農業、スマート農業、第6次産業化（ワイン用ブドウの生産・醸造）など、より実践的な農業について学んでいます。農場実習は座学では経験できないリアルな生産現場を知り、作物を栽培する楽しさに触れられる貴重な機会となりました。

英語農学

英語でも専門の勉強をしよう

担当
教員
英語農学研究室
McTaggart, Iain 准教授 / Ph.D.

英語農学科目では、食料、農業、健康衛生、環境などの問題に関連する専門的な英語を学ぶことができます。英語農学コースは、農学科、農芸化学科、生命科学科、食料環境政策学科それぞれに関連した科目を中心に数科目提供されています。授業では、重要な専門用語を学び、英語で問題や課題を説明し、討論の練習をします。また、少人数のグループに分かれて、そ

れぞれの研究や興味のある事柄や事象についてお互いに説明したり、話し合ったりする練習をします。英語農学の授業に参加することで、英語でのコミュニケーション能力を高め、持続可能な農業や農村地域、バイオテクノロジー問題、食品化学、気候変動といったテーマについて、自信を持って英語で話せるようになります。



MESSAGE

McTaggart, Iain 准教授

最近、仕事や研究で、海外の人とコミュニケーションを取りたい、または取らなければならないと思うことが多いと思いますが、そのような場合、英語でコミュニケーションを取ることが多いと思います。そこで、この授業では、様々なトピックについて英語で話したり、書いたりする練習をします。授業では、教員からだけでなく、学生同士がお互いに助け合い、学び合えるように、少人数のグループ学習をたくさん行います。この授業で英語のコミュニケーション能力と自信を養い、世界に羽ばたきましょう。

PROFILE

1985年グラスゴー大学理学部卒業。1992年エジンバラ大学大学院理工学研究科博士課程修了。スコットランド農業大学で環境スペシャリストとして15年間勤務。2007年より明治大学農学部特任准教授、2017年より現職。専門は環境科学。

STUDENT VOICE

農学科3年
大内 純

埼玉県立春日部高等学校卒業



英語で学ぶ農学教育とグローバルな視野の育成

グローバル化が進む中、英語能力は、世界規模の課題解決に必要な知見とスキルを養う上で重要であり、農学教育も例外ではありません。私が所属する英語農学研究室では、持続可能な社会の実現を目指し、世界中の文献を参考にしながら、英語で発表や討論を行い、プレゼン力や英語運用能力を日々磨いています。私はこの経験を活かし、アメリカでの留学を通じて各国の留学生や

現地の人々と交流し、多様な価値観に触れることで視野を広げました。その結果、言語能力の向上だけでなく、柔軟性や適応力を培う貴重な経験を得ました。これらの学びは、多角的な視点や新たな発想力を養い、持続可能な社会づくりに貢献するための基盤となります。このような経験を学生時代に積むことは、自らの可能性を広げる大きな一歩だと考えています。

文芸思潮

西洋文学の伝統に触れて いま 現在・自己を見つめる

担当
教員
英語第Ⅱ研究室
狩野 晃一 准教授



©British Library Board

西洋文学の伝統、とりわけ叙事詩のそれは古代ギリシアのホメロスを嚆矢として、ローマのウェルギリウス、中世のダンテ、チョーサー、その他後世の作家へと連綿と続いています。ミメシスという模倣と創造の技法によって、それぞれの作品がいかに創造され、また受容されてきたかを、作品を丹念に読みながら考察します。過去に創られた物語世界が語りかけることと、現在の我々の思考様式などを往還しながら理解を深

めていきます。

講義ではすべて邦訳を使っていますが、先人の優れた訳業のおかげで、時間的にも言語的にも遠く離れた作品に接することができ、結果的に豊かな読書体験につながります。古典作品は山の如くにしてただそこに在ります。現代に束縛された自分という枠を外して、ひとたび頁を捲れば、多様な世界、深い叡智を示してくれます。ともに古典の世界に分け入ってみましょう。



段階的に専門知識を学べるカリキュラム

1・2年次は、農学全般を幅広く学ぶことができるように、各学科の総合科目と専門科目を並列したカリキュラムを設定。学科の枠を越えて幅広い知識を得ることで、農学という分野が自然、社会、人間、あらゆるものの基礎になっているということを、ま

ずは理解します。3年次からは研究室に所属し、各自の専攻科目を重点的に学んでいきます。単に専門的な知識や技術を習得するだけでなく、全地球的、全生物的視野に立ってマクロ的に事象を把握し、対処できる人材の養成を目指します。

[カリキュラムの特長]

総合科目(全学科共通)

幅広い領域をカバーしたカリキュラムで、農学に関する土台を確実に身につける

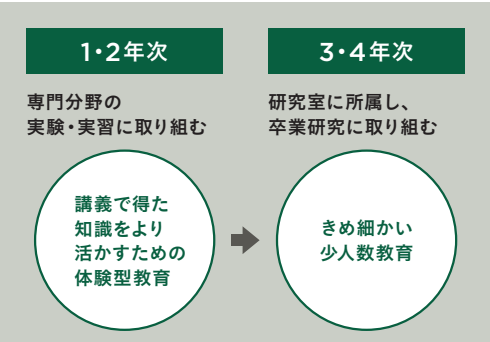
教養科目群
共通専門科目群
外国語科目群
保健・体育科目群
総合科目ゼミナール(サブ・ゼミナール)

専門科目

2年次から3・4年次にかけて、専門科目を関連づけて学習できる履修モデルを準備

基礎科目群
専攻科目群
卒論関係科目群

[専門性を高める学び]



[農学部4年間の流れ]

1年次

自分の興味や将来の希望を見据え、4年間の学習目標全体を考えます。総合科目(教養科目群、共通専門科目群、外国語科目群、保健・体育科目群)を中心に、基礎科目群と1年次に指定された専攻科目群を学びます。次第に学科ごとの違いや、自分が専門として何を学ぶべきかが明らかになってくるでしょう。

学びの活かし方を学ぶ1年

農学科1年
佐藤 花梨

千葉県私立芝浦工業大学柏高等学校卒業

1年次では、農学に関する幅広い分野の基礎を学びます。栽培学や生産環境学、畜産学など様々な内容が含まれており、すでに目標が明確な学生は、その分野に対して多角的な視点を持つことができます。一方で、まだ自分のやりたいことが定まっていない学生も、幅広い学びを通じて自分の興味を見つける機会が得られます。

授業は座学にとどまらず、農場実習や農学基礎実験といった実践的な授業も並行して行われ、学んだ知識を実際に使う場面が多く設けられています。たとえば、農場実習では、実際に自分で野菜を収穫する体験ができます。このような体験は他ではなかなか得られない貴重な経験であり、作物生産に興味がある私にとって、大変意義のある学びとなりました。

2年次

総合科目と専門科目の基礎科目群に、専攻科目群が加わってきます。学科の枠を越え、幅広い知識を得ることで、おのずと農学という分野が、自然・社会・人間のあらゆる基礎と、その上に繰り広げられた成果によって支えられていることに気づくはずです。

やってみないとわからない

農芸化学科2年
栗田 智希

神奈川県立多摩高等学校卒業

2年次では、環境や食品といった分野を扱います。ここまで学んできた内容を振り返り、自分の好きな分野を見つけることができます。今はまだ、何をやりたいのが明確でなくても問題ありません。やってみないとわからないからです。大学で様々な講義、実習を経験していくうちに、やりたいことが必ず見つかります。農芸化学科は実験が多い学科です。そのため、座学だけでは学べない新たな経験や発見があるでしょう。また、実験と一緒にやることで、友達も増えるでしょう。農芸化学科の学びは私たちの生活に直結しています。普段食べている食事の栄養素を学ぶことは、健康な食生活を送っていくうえで必要不可欠ですし、薬や化粧品には有機化学がかかわってきます。学んだことを自身の生活に当てはめて考えることができたときは達成感があります。

3年次

専門科目を重点的に学ぶ学年です。各自の所属する学科と、専門とする研究分野(ゼミ・研究室のテーマ)に関係の深い科目を中心に授業計画を立てます。文献調査や卒業研究など、ゼミ・研究室にかかわる科目や活動も加わるため、とても重要かつ充実した1年になります。

興味のある分野の学びを深める

生命科学科3年
城後 菜緒

東京都私立大妻高等学校卒業

3年次になると、専門的な分野の授業が中心となりより高度な内容を学びます。さらに、自分の興味に合った研究室に所属して、これまで学んだ知識を活かしながら研究に取り組むことができます。先生や先輩たちと一緒にディスカッションしながら研究を進めることで、その分野についての理解を深め、技術を磨くことができます。また、研究室での活動として論文紹介や自身の研究の進捗状況を発表する機会があります。知識を深めるに加えて、自分の頭の中で内容を整理して言語化し発表する能力を身につけることができます。このように3年次からは、授業に加えて研究活動があるため1・2年次までとは違う生活を送ることになり、大変なこともあります。様々な経験を積みながら充実した日々を送ることができます。

4年次

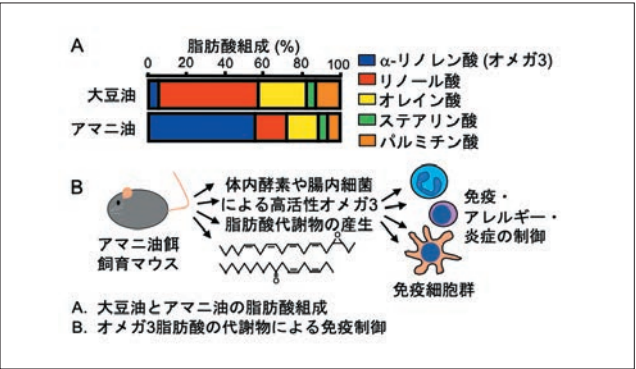
卒論のための研究が中心になります。視野を広げるため、前年度まで履修していない科目を補うこともできます。進学希望者は大学院科目の一部を学ぶこともできます。最後の仕上げの年です。就職・進学の準備をしながら、悔いのない学生生活を送りましょう。

研究を通じて成長できる1年

食料環境政策学科4年
新井 豪峻

茨城県私立江戸川学園取手高等学校卒業

4年次には履修に余裕ができるので、卒業論文の執筆に全力で取り組むとともに、次のステージへの一步を踏み出す準備を整えることができます。当学科では講義だけではなく、ファームステイやゼミのフィールドワーク実習を通して様々な知識を身につけられます。その経験を基に自身が興味を持つテーマの調査を行います。卒業論文では自ら課題を設定し、調査を進めることが求められるため、自発的に行動することが重要です。卒業論文は初めての経験ばかりなので、わからないことも多いですが、大学の先生方も積極的にサポートしてくださるので、安心して調査を進められます。卒業論文を執筆する経験を通じて、社会で必要とされる主体性を育むことができます。



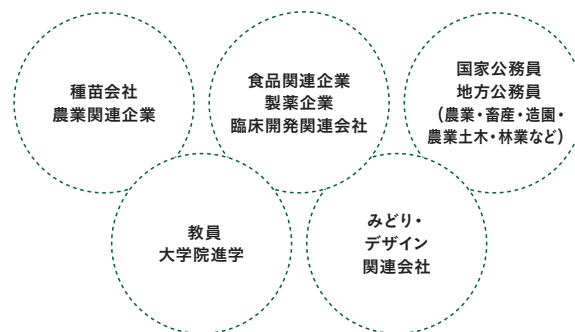
実験や実習で得た学びを、研究室や個人での研究に活かします。





農学科は、自然と調和を保った高度文明社会を実現させるために、「食料」と「環境」の分野で地域や国際社会で活躍できる人材を養成することを使命としています。人類の持続的生存について俯瞰的・長期的視点から洞察し、農学全般においての問題点を発見し、それらを解決する能力を身につけられるよう、系統的かつ幅広いカリキュラムと研究領域を設けているのが本学科の特長といっていいでしょう。学生は3年次より研究室に所属し、総合科目で裏づけられた倫理観・世界観をベースに、新農業資源の開発、水・土地資源を活かした食料の安定生産、農村と都市の環境保全や緑の保全・創生などに関する専門知識を身につけていくことになります。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ



「農学」はこれからも
「文明」の礎です

花卉園芸学研究室
半田 高 教授

Culture には「栽培」、「文化」、「教養」の意味があります。ヒトは狩猟採取生活から、野生植物の栽培化や野生動物の家畜化による「農業」を始めることまで、「文明」を生み出し急速に発展させてきました。しかし、持続可能な農業や文明には、ヒトも自然の一部であることを良く理解し、自然との調和を考えることが大切です。農学科には、皆さんがこれから生きていく時代の礎となる学びがたくさんあります。1・2年次では、講義・実験・実習を通して、農業や環境の幅広い知識や技術を学びます。3・4年次の特別研究では、より専門的な知識や研究手法を修得するだけでなく、自ら問題を解決し論理的に説明する能力を身につけます。農学科でこれからの農業や文明と一緒に考えてみましょう。

[学 科 主 要 科 目]

1
年次

▶ 基礎科目群		
科学基礎科目		導入科目
数学概論(2)	化学概論(2)	栽培学入門(2)
地学概論(2)	物理学概論(2)	アニマルサイエンス入門(2)
地学実験(1)		生産環境学入門(2)
		ランドスケープ入門(2)

農学基礎科目	
農学基礎実験(1)	応用生物統計学(2)
基礎生物統計学(2)	植物生理学(2)
マクロ生物学入門(2)	基礎図法(2)
分子生物学(2)	土壌学(2)
	生物多様性進化学(2)
	動物生理・栄養学(2)

▶ 専攻科目群
資源植物学(2)
専門実習Ⅰ(1)
専門実習Ⅱ(2)

2
年次

▶ 基礎科目群
科学基礎科目
物理学実験(1)

農学基礎科目		
植物遺伝資源学(2)	動物遺伝資源学(2)	基礎植物育種学(2)
測量学Ⅰ(2)	バイオテクノロジー(2)	
	測量実習Ⅰ(1)	

▶ 専攻科目群 (基幹科目)

農地工学(2)	農学実験Ⅲ(1)	水理学(2)
応用力学(2)	農学実験Ⅴ(1)	
保全生態学(2)		
農学実験Ⅰ(1)		

作物学概論(2)	生産システム学概論(2)	環境気象学(2)
動物生産・福祉学(2)	農学実験Ⅱ(1)	園芸学概論(2)
植物保護学概論(2)	農学実験Ⅳ(1)	
動物行動学(2)	農学実験Ⅵ(1)	

▶ 専攻科目群 (分野別科目)

食糧生産関係			環境関係		
動物資源繁殖学(2)	動物感染症学(2)	農村計画学(2)	構造力学(2)	測量学Ⅱ(2)	ランドスケープ計画学(2)
			応用水理学(2)	測量実習Ⅱ(1)	
			土壌物理学(2)		

3
年次

▶ 基礎科目群

技術者倫理(2)	化学実験(1)
----------	---------

▶ 専攻科目群 (分野別科目)

食糧生産関係				環境関係		基幹科目
動物育種学(2)	実験動物学(2)	野菜園芸学(2)	工芸作物学(2)	生産気象学(2)	景観園芸学(2)	土質力学(2)
動物生産制御学(2)		花卉園芸学(2)	植物ウイルス学(2)	材料施工学(2)	ランドスケープ設計学(2)	ランドスケープデザイン学(2)
動物環境学(2)		植物病害制御学(2)	害虫管理学(2)	プロジェクト計画法(2)	ランドスケープエコロジー(2)	
熱帯農学(2)		植物育種学(2)	園芸植物繁殖学(2)	農業水利学(2)		
動物資源機能利用学(2)		生産システム学(2)	植物成長制御学(2)			
		食用作物学(2)	雑草学(2)			
		果樹園芸学(2)				
		野生動物学(2)				
		植物病理学(2)				
		応用昆虫学(2)				
		植物線虫学(2)				
		肥料学(2)				

3・4
年次

▶ 卒論関係科目群

文献調査・特別研究(卒論)(8)

※カリキュラムは変更となる場合があります。 ※()内は単位数。

詳しくはホームページへ。

https://www.meiji.ac.jp/agri/department/agriculture/cr_no2004.html



[農学科の4年間の学び]

1 年次

多様な学びを体験する

農学科1年
菅野 有芽
福島県立安積高等学校卒業



1年次では、作物栽培、動物、都市景観といった様々な分野の導入科目を学びます。これを通じて自分の興味関心がある分野を見つけ、研究室を選ぶための参考にします。さらに、週に1度は農場での実習や農学に関する実験を行い、実践的な学びを得る機会があります。これらは、クラスメイトと互いに協力しあうことで学びを深めることができるのも特徴です。

〈 時間割の例(1年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	スペイン語IIa スペイン語IIb	ランドスケープ入門 民俗学	栽培学入門 土壌学		－	－
2	マクロ生物学入門 英語IIa	英語IIb スポーツ実習I	アニマルサイエンス入門 動物生理・栄養学	スペイン語IIa アグリサイエンス論	スペイン語IIb	－
3	農学基礎実験 農学基礎実験	物理学基礎 スポーツ実習II	生産環境学入門 生物多様性進化	英語コミュニケーション 生命倫理学		－
4	農学基礎実験 農学基礎実験	運動学	日本の歴史A 基礎図法	英語III 植物生理学	－	－
5	－	－	－	－	－	－

授業紹介 ▶ 生産環境学入門

生産現場の縁の下の力持ちについて学ぼう

作物は、水田や畑地とかがいのための水、土などがあってはじめて栽培が可能になります。また、食料生産には、生産の場であるとともに生活の場である農村や、周辺の自然環境との関係も考える必要があります。そんな生産現場を支える縁の下の力持ちの分野を学ぶのが「生産環境学入門」です。この授業では、まず、農地の開拓や水路の整備の歴史を学びます。その上で水田や畑の構造や機能、水循環やかがい・排水、農村空間の諸問題まで、生産環境の整備に関して色々な視点から見ていきます。興味のあるトピックに出会い、「縁の下」の面白さも見つけてほしいと願っています。(小島信彦准教授)



選び、学び、楽しむ

農学科2年
池田 景
愛知県立岡崎高等学校卒業



2年次の授業では、1年次に学んだ基礎をさらに発展させ、専門的な知識をより深く学びます。さらに、6つの分野から自ら興味のあるテーマを選び、能動的に取り組む農学実験が始まります。3年次の研究室配属に向けて、自分の進み道を少しずつ見定めていく重要な時期ですが、大学生生活に慣れ、様々なことに挑戦できる絶好の機会でもあります。焦らず、楽しみながら、学校生活を充実させましょう。

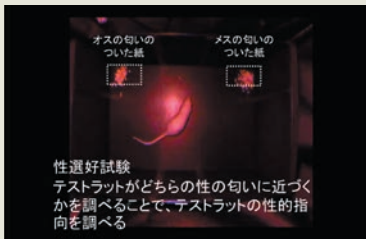
〈 時間割の例(2年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	動物資源繁殖学 動物生産・福祉学	測量学I	農地工学	植物生命科学 作物学概論	英語IIa 英語IIa	－
2	マクロ生物学入門 測量学II	保全生態学	水理学 生産システム概論	バイオテクノロジー 動物行動学	農村計画学 植物保護学概論	－
3		－		－	農学実験V 文芸思潮	－
4	日本語表現B	－	農学実験II	植物生理学	農学実験V	－
5	－	－	－	－	－	－

授業紹介 ▶ 動物行動学

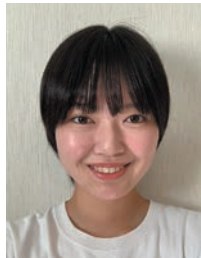
動物の「こころ」はわかるのか

皆さんは動物の「こころ」を知りたいと思ったことはありませんか？残念ながら動物はヒトと同じ言葉は話しません。では動物の「こころ」を知ることが不可能なのでしょうか。動物行動学では、「こころ」のことを情動といい、動物とヒトの情動行動には共通性があると考えられています。たとえば喜びや愛着の対象には近づき、恐怖の対象を回避するのは動物も同じなのです。本講義では、動物がどのような時にどのような行動をするのかを知り、その行動の調節機構について現在明らかになっていることを学ぶことで、動物の「こころ」に迫ります。(川口真以子准教授)



知識を掘り下げる

農学科3年
杉本 弥英
埼玉県立越谷北高等学校卒業



3年次は専攻科目群の授業が多くなり、研究室の活動も始まるので、全体的に発展的な内容を中心に学ぶことになります。農学科の研究室は主に植物、動物、環境の分野があり、興味のある研究室を見つけることができます。私は環境デザイン研究室に所属し、街区公園のコンペティションに向けての制作に取り組んでいます。3年次の活動で、自分の関心のあること、やりたいことが明確化され、4年次の卒業研究につながります。

〈 時間割の例(3年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1		応用昆虫学	野菜園芸学	－	－	－
2	ランドスケープ情報論 果樹園芸学	食用作物学	植物病害制御学	熱帯農学		－
3	園芸植物繁殖学	植物ウイルス学	ランドスケープデザイン学	ランドスケープ活用学		－
4	英語農学I 英語農学II	－	ゼミナール	ランドスケープ設計学	植物成長制御学	－
5		－	ゼミナール	－	－	－

研究室REPORT ▶ 環境デザイン研究室

身の回りの空間デザインを知り、創造する

環境デザインは都市、農村から住宅のペランダやインテリアまで、幅広いスケールの空間デザインを対象としています。それらの空間がどのように成り立ち、意味を持っているかを知り、今後のあり方を模索していきます。人口減少時代にあつて、都市空間の再構成、農村の活性化など、環境デザインに関する課題は山積しています。単に空間のデザインを考えるのではなく、対象の背景にあるものを深く掘り下げながら研究を行っています。



担当教員より

菅野 博貢
准教授

学生たちには好奇心を大切に、自由な発想で対象に向かうよう促しています。昨年の卒業研究では、「VR世界での緑のあり方」や、「街路樹とのコミュニケーション(メルボルンの事例研究)」などが学会発表され、新聞などのメディアにも取り上げられました。

自分のやりたいことを、より深く

農学科4年
吉見 大樹
神奈川県横浜市立金沢高等学校卒業



4年次では授業、卒論へ向けた研究活動をメインで行います。私は大学院に進学するので、先取履修制度を利用して大学院の授業を1科目履修しています。毎週のゼミで行うのはあくまで活動報告であり、研究活動自体はそれ以外の空いている時間を使って行います。先生と同じ研究室の仲間と連携を取りながら計画を立てて進める必要があるため、主体性や自分で考える力が身に付きます。

〈 時間割の例(4年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	－	－	－	－	－	－
2	卒業研究	卒業研究	卒業研究	ゼミナール	農村計画学	－
3	卒業研究	卒業研究	卒業研究	ゼミナール	卒業研究	－
4	卒業研究	卒業研究	卒業研究	ゼミナール	卒業研究	－
5	－	－	－	－	－	－

研究室REPORT ▶ 地域環境計画研究室

持続可能な農業・農村のかたちを考える

立派な田畑があり、素晴らしい作物があっても、過疎化や高齢化により農業にかかわる人がいなくなれば、農業や農村は荒廃してしまいます。私たちの研究室では、離島や中山間地域、都市近郊の農村をフィールドに、農業や地域活動、鳥獣害対策などの新しい担い手を考えることを通じて、持続可能な農業や農村のかたちを考える研究を行っています。



担当教員より

服部 俊宏
准教授

専門的な技術を活かすためには、技術が活かせる「場」を準備する必要があります。本研究室では、農業が営まれ、農業にかかわる人が暮らす「場」である農村がこれからも持続していくためにはどうすべきかを研究しています。

卒業生からのメッセージ

興味につながる「きっかけ」

2024年
農学科卒業

佐藤 千穂

NECソリューションイノベータ株式会社・
公共住民DXソリューション事業部

農学科には動物、植物、環境といった「幅広い領域」があります。講義では想像よりも多くの知識を得ることができましたが、あくまで「きっかけ」だったと思っています。私は講義の中で特に興味を持ったブルーベリーを対象として研究をしました。「きっかけ」がたくさんあるからこそ、学びたいことが見つからないくても農学科なら見つけられると思います。皆さんの大学生活が実り多いものであるよう、願っています。

TOPICS

線虫多様性の世界

未知なる驚異の探求が始まります！

線虫は、地球上で最も多様な生物の一つです。体長わずか1mmほどの小さな生物ですが、陸から深海まであらゆる環境に適応して生きています。彼らは土壌での分解者として、地球の物質循環を支える存在であり、さらに微生物やウイルスの運び屋としても重要な役割を果たしています。また、寄生線虫は時に宿主の行動を操るという驚きの能力を持ち、生態系全体に影響を与えているのです。私たちの研究では、このミクロな生物の遺伝子や形態、生態系での役割を解明し、生物多様性や進化の謎を追求しています。たとえば、私たちはアメリカの極限環境の湖で、人間の500倍ものヒ素耐性を持つ線虫を発見しました。彼らが過酷な環境にどのように適応しているのか、そのメカニズムを探っています。さらに、線虫がガン検査に使われ始めているように、まだ発掘されていない可能性も無限に広がっています。しかし、線虫は味方ばかりではありません。農作物や樹木に寄生し、大きな被害を与える種類も存在します。そのため、私たちは農業や森林を守るための新しい対策にも挑戦しています。線虫の研究は、まさに未知なるフロンティア。このミクロの生態系で、あなたも一緒に新しい発見をしてみませんか？（新屋良治准教授）



極限環境湖でのサンプリングの様子と線虫

インタビュー動画

農学科卒業生の活躍の様子ははこちらから

<https://meijinow.jp/senior/obog/91538>

DATAでわかる農学科

■ 在籍状況（2024年4月1日現在）

	男子	女子	合計
1年	99(65%)名	54(35%)名	153名
2年	88(53%)名	79(47%)名	167名
3年	98(62%)名	61(38%)名	159名
4年	96(65%)名	51(35%)名	147名
合計	381(61%)名	245(39%)名	626名

■ 研究室状況（2024年4月1日現在）

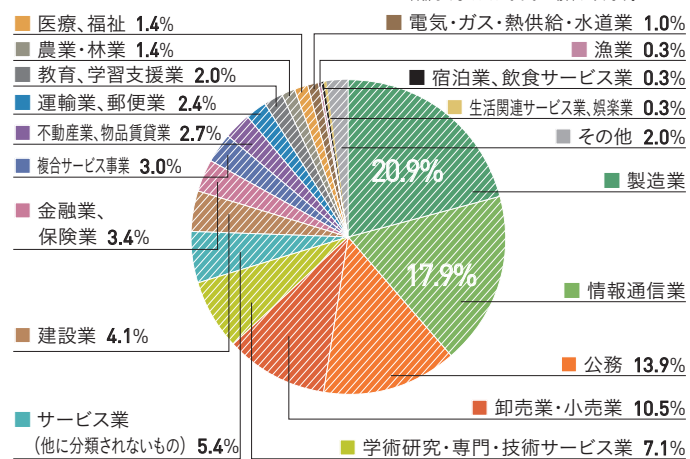
研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
18	12人	84.7%

■ 2021年度～2023年度進路状況



■ 2021年度～2023年度就職実績

※グラフ内のパーセンテージは四捨五入されているため、合計しても100%にならない場合があります。



■ 2021年度～2023年度主な就職先（大学院生を含む）

・国家公務員（総合職）	・NECソリューションイノベータ（株）	・西松建設（株）
・国家公務員（一般職）	・日本たばこ産業（株）	・日本ハム（株）
・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	・日本農業（株）	・日清食品ホールディングス（株）
・東京都庁	・（株）サカタのタネ	・（株）日清製粉グループ本社
・横浜市役所	・山崎製パン（株）	・カゴメ（株）
・JA全農	・キオクシア（株）	・カルビー（株）
・日本生活協同組合連合会	・SCSK（株）	

〔 農学科の教育・研究スタッフ 〕

生産システム学研究室

現場で使える技術・
情報を考える

池田 敬 教授／博士（農学）

生産現場で発生する様々な問題を解決するために、技術開発と基礎研究を結びつけた研究を行っています。



応用植物生態学研究室

里山と里川の
生物多様性を守る

倉本 宣 教授／博士（農学）

現代は大量絶滅の時代です。里山における人と自然との関係を取り戻すことを通して、生物多様性を回復していくとしています。



動物遺伝資源学研究室

動物遺伝の可能性を引き出す

溝口 康 教授／博士（農学）

畜産、愛玩、野生動物を対象とした動物遺伝学研究を行い、資源、生産、獣医、保全分野への貢献を目指します。



動物環境学研究室

ヒトと動物の幸せな環境を

川口 真以子 准教授／博士（医学）

化学物質や養育方法等の環境因子が動物へおよびる影響について研究し、動物福祉や生産性の向上へ寄与することを目指しています。



動物生産学研究室

持続可能な畜産業を確立する

佐々木 羊介 准教授／博士（農学）

疫学的アプローチやデータサイエンスを駆使して、食料資源の確保を目的とした持続可能な畜産業の確立に貢献する研究を行っています。



地域環境計画研究室

人と空間の問題を考える

服部 俊宏 准教授／博士（農学）

農地を中心とした空間管理とそれを支える人の問題を追究します。地域が健やかであること、豊かであること、持続的であることが目標です。



応用昆虫学

昆虫の季節適応を理解して
害虫予報を正確に

綱島 彩香 助教／博士（農学）

近年の地球温暖化で変化する害虫の生活史や天敵との相互作用に注目し、防除技術の提案や改善を目指しています。



応用昆虫学研究室

環境と人に
やさしい害虫管理へ

糸山 享 教授／博士（農学）

害虫や天敵昆虫の生理・生態的な特性を多面的に解析し、農業だけに頼らない効果的かつ効率的な防除技術の開発を目指しています。



土地資源学研究室

熱くならなきゃ、研究じゃない！

登尾 浩助 教授／Ph.D.

土壌中と接地気層中の物質とエネルギー循環に関する研究を通して、環境と食料生産の維持に貢献できる人材を育成しています。



野菜園芸学研究室

現場直結型の技術確立

元木 悟 教授／博士（農学）

野菜類の生理・生態の解明とともに、野菜の生産現場を意識した安定生産技術および作型の開発を目指しています。



環境デザイン研究室

生活空間の
あるべき姿を追究

菅野 博貢 准教授／博士（工学）

戦後、常に経済最優先で形成されてきた日本の都市や農村の空間について、将来の質的転換をはかる方策について追究しています。



作物学研究室

作物の潜在的な
生産能力を高める

塩津 文隆 准教授／博士（農学）

作物の潜在的生産能力に対する生理・生態学的な特性を解明し、持続的・安定生産が可能な栽培技術の開発を目指しています。



環境気象学研究室

気象と炭素循環の理解から
持続可能な環境保全へ

矢崎 友嗣 准教授／博士（農学）

湿地や森林の微気象や炭素循環を理解し、環境問題の解決や持続的な利用を目指します。



果樹園芸学研究室

多様な果実の
安定供給法の確立

岩崎 直人 教授／農学博士

地球環境の変動が各種果樹の生産性におよぼす影響について解析し、持続可能な新しい生産体系の確立に取り組んでいます。



花卉園芸学研究室

花の魅力を引き出そう

半田 高 教授／農学博士

花の野生種と園芸品種の多様性解析や増殖、切り花の開花や老化を研究しています。



植物病理学研究室

病気に負けない植物を創る

大里 修一 准教授／博士（農学）

植物の病気を分子レベルで解き明かし、バイオテクノロジーを駆使して病気に強い植物を生み出すための基礎研究を行っています。



水資源学研究室

水の世紀を生きる

小島 信彦 准教授／博士（農学）

環境に配慮した操作や管理が容易で省エネルギーな水利施設の開発や水を適切に利用するためのシステムの確立を追究しています。



植物線虫学研究室

植物寄生線虫病に関する
基礎・応用研究

新屋 良治 准教授／博士（農学）

農林業に被害をもたらす寄生線虫病の制御手法開発を念頭に置き、線虫の寄生・生殖・行動の解明とその進化プロセスの研究をしています。



土壌物理学

土をつかって未来を拓く

佐藤 直人 助教／博士（農学）

月や火星などの低重力環境下における宇宙農業を実現するため、多孔質体中の水分挙動に対する重力の影響を明らかにし、適切な灌漑技術の確立を目指しています。



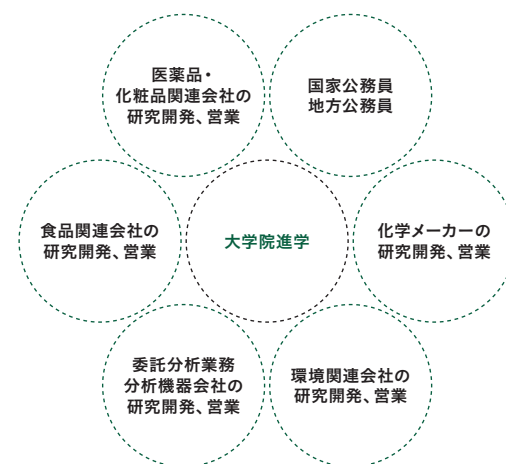
※ 研究者は退職等により変更となる場合があります。 ※ 研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。



農芸化学科では、私たちの生活にかかわりの深い食品や環境分野の問題を、バイオテクノロジーと最新のサイエンスによって解決することを目指しています。微生物を用いた環境にやさしい技術の開発、おいしくて健康に良い食品の研究開発、植物生産や環境の資源である土壌の研究、動植物や微生物が生産する有用物質の検索など、農芸化学のフィールドには多くの重要な研究テーマがあります。

こうした分野で社会に貢献できる人材を育てるために、農芸化学科では豊富な実験・実習(1・2年次)と2年間かけて取り組む卒業研究(3・4年次)をカリキュラムの中心に据えています。バイオサイエンスの基礎知識と実験技術を持つ卒業生は、食品・医薬・化学などの幅広い分野で活躍しています。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ



「専門分野をどうしようか」と迷っている人に
ぴったりです！

環境バイオテクノロジー研究室
小山内 崇 准教授

農芸化学科では、食品・微生物・環境・土壌・生物機能などをキーワードに、化学と生物の幅広い分野を学びます。1・2年次では、有機化学、生化学、分子生物学、微生物学等の基礎を学びます。農芸化学科は専門が幅広いため、理系に興味がありつつも、専門分野をどうしようかと迷っている人にぴったりです。1・2年次で様々な授業を受けながら、自分に合う分野を探すことができます。

3・4年次では専門を学びながら、研究室に所属して卒業研究を行います。研究室では先生や先輩たちに教わりながら、専門的な研究を進めます。たとえば当研究室では、脱炭素社会に向けて、二酸化炭素を原料とするバイオプラスチック生産の研究を行っています。有意義な研究室生活を通して、社会課題に立ち向かう社会人へと成長することができます。

[学科主要科目]

		1年次	2年次
▼基礎科目群	必修	必修化学(2) 生化学Ⅰ(2) 微生物学Ⅰ(2)	有機化学(2) 生化学Ⅱ(2) 微生物学Ⅱ(2) 基礎分子生物学(2)
	選択	生物学(2) 農芸化学(2) 地学概論(2) 化学実験(1) 地学実験(1)	環境科学(2) 分子生物学(2) 植物栄養学(2) 物理化学(2)

		1年次	2年次
▼専攻科目群	選択	微生物学実験(1) 生化学・物理化学実験(2) 環境化学実験(1)	微生物生理学(2) 有機化学・有機分析実験(2) 環境分析実験(1) 化粧品科学(2)
	3年次		食品化学・食品分析実験(1) バイオテクノロジー実験(1) 食品衛生学(2)
	選択	食品分野 食品機能化学(2) 発酵食品学(2) 栄養生化学(2)	生物機能分野 天然物有機化学(2) 応用生化学(2)
	選択	環境分野 土壌園科学(2) 微生物生態学(2) 微生物遺伝学(2)	環境分析化学(2) 植物環境制御学(2) 環境バイオテクノロジー(2)

		3・4年次
▼卒業関係科目群	選択	食品分野 食品免疫学(2) 食品健康科学(2)
	選択	生物機能分野 農業化学(2) 生命システム工学(2)

※カリキュラムは変更となる場合があります。 ※()内は単位数。

詳しくはホームページへ。

https://www.meiji.ac.jp/agri/departament/agri_chemi/cr_nobake.html



〔 農芸化学科の4年間の学び 〕

1 年次

2 年次

3 年次

4 年次

基礎を固め
将来の学びへつなげる農芸化学科1年
高橋 一花

宮城県古川黎明高等学校卒業



1年次では専門分野を学ぶ準備段階として基礎科目群を中心に学びます。農芸化学科では、1年次から様々な実験がカリキュラムに含まれているので、実際に実験器具に触れたり微生物の培養を行ったり、より実践的に学ぶことができます。更に、実験や農場実習などクラスメイトと協力して取り組む場面がたくさんあるため、良い仲間を作ることができることも大きな魅力の一つだと思います。

〈 時間割の例(1年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

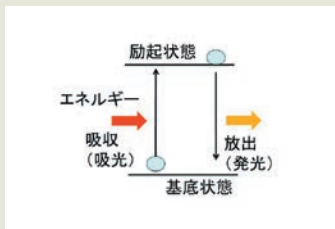
	月	火	水	木	金	土
1	スポーツ実習I	中国語Ia 中国語Ib	必修化学 有機化学	微生物I(農化) 生化学II	心理学B	—
2	健康科学	経済学	中国語IIa 中国語IIb	英語Ia 英語Ib	生化学I 基礎分子生物学	—
3	生物学基礎	日本語表現B	中国語IIb	英語Ib	基礎分子生物学	—
3	科学英語	微生物学実験	化学実験	英語III	—	—
4	生化学・ 物理化学実験	微生物学実験	化学実験	—	生物学	—
5	—	—	—	—	農芸化学	—

授業紹介

必修化学

エネルギーと平衡で考える化学

農芸化学は化学と生物を基本とする多様な学問分野を含み、必修化学はその最初の導入となる講義です。原子の電子配置や周期性、分子構造の議論から始まり、化学結合に関する有機化学の導入部分は、エネルギーの安定化で多くの事象が説明できます。また、熱力学や酸塩基、酸化還元といった多くの化学反応は化学平衡で説明でき、物理化学・分析化学の導入につながります。化学を俯瞰的に見て、一つの捉え方が広く応用できることを意識してもらい、将来それぞれの専門分野への理解に役立ててもらうことを目標にしています。(安保充准教授)



未来へつなげる学び

農芸化学科2年
夏目 朋空

静岡県立浜松北高等学校卒業



2年次では、3年次から配属される研究室の研究内容のもととなる専門的な分野の基礎的な学習を行います。1年次と比べて発展的な講義や実験を通して、農芸化学の多岐にわたる分野の理解を深め、自分の興味のある分野を見つけてだすことができます。それを踏まえて研究室見学など、3年次以降の学生生活のために自ら行動することで1年間で充実させることができます。

〈 時間割の例(2年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	授業デザイン論 (実験)A	物理学 (力学・熱力学)	総合的な学習の 時間の指導法	細胞生物学(農化)	環境科学	—
1	有機分析化学	教育心理学	スポーツ実習II	生徒・進路指導論	土壌化学	—
2	物理化学	分子生物学	英語IIa	植物栄養学	スポーツ実習II	—
2	食品化学	栄養科学	英語IIb	—	スポーツ実習II	—
3	有機化学・ 有機分析実験	有機化学・ 有機分析実験	環境分析実験	生命科学初歩概説	文芸思潮	—
3	科学英語	バイオ テクノロジー実験	食品化学・ 食品分析実験	教育相談の理論と心理	生物有機化学 (農化)	—
4	有機化学・ 有機分析実験	有機化学・ 有機分析実験	環境分析実験	教育の方法と技術 (ICTの活用含む)	スポーツ実習II	—
5	—	—	—	—	—	—

授業紹介

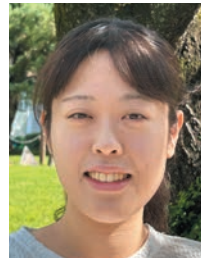
栄養科学

「栄養」とは？「食べる」とは？

生活習慣病の世界的な蔓延とも相まって、食と栄養、健康に対する社会的ニーズは高まっています。しかし、「栄養」とは一体なんでしょうか？「栄養」とは、食物を摂取して、その成分を消化・吸収・代謝・排泄することにより、成長・発育する生命活動の営みすべてのことを指します。一方、栄養素とは栄養のために摂取すべき成分のことを指します。本講義では、食と栄養が持つ社会的役割について触れながら、栄養素の消化・吸収・代謝について理解を深めるとともに、食品摂取が身体に及ぼす生理作用、食欲の制御、ホルモンとの相互作用、生活習慣病の予防効果について理解することを目標としています。(金子賢太郎准教授)

充実した実りある
1年間農芸化学科3年
持舘 陽菜

福島県立原町高等学校卒業



農芸化学科には食品、有機化学、微生物など、様々な分野を扱う研究室があります。3年次からは研究室に所属できるため、自分の研究に関係する授業を選ぶ形になります。2年次に比べて専門的な科目が多くなり、自らの興味や研究と、今まで学んできたことが結びつくことが多くなります。同じ関心を持つ仲間と研究や自らの将来について話し合うことも多く、充実した日々を過ごしています。

〈 時間割の例(3年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	食品生化学	生命システム工学	応用生化学	天然物有機化学	微生物生態学	—
1	生物物理学	卒業研究	環境微生物学	環境/バイオ テクノロジー	植物環境制御学	—
2	栄養生化学	卒業研究	発酵食品学	研究ゼミ	微生物遺伝学	—
2	ケミカルバイオロジー	卒業研究	卒業研究	研究ゼミ	応用微生物学	—
3	—	卒業研究	研究ゼミ	卒業研究	—	—
3	卒業研究	卒業研究	研究ゼミ	卒業研究	卒業研究	—
4	—	環境化学	卒業研究	卒業研究	—	—
4	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
5	—	環境化学	—	—	—	—

研究室REPORT

ケミカルバイオロジー研究室

生命現象を支える化学物質

私たちの身の回りの植物や微生物は様々な有機化合物を生産しており、それらは生命現象に深くかかわっています。当研究室では生体内で化合物が合成される仕組みや、化合物が生体内でどのように働くのかを研究しています。現在、カビから発見された新しい脂質物質であるステロールアミノ酸誘導体の生理機能を解析しています。また、原始の地球上で化学物質がどのように相互作用することで生命が誕生したのか、生命の起源の解明にも挑戦しようとしています。



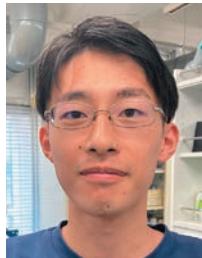
担当教員より

久城 哲夫
教授

生命現象は突き詰めれば化学物質の相互作用によってもたらされます。生体内の分子がどのように合成され作用し、代謝されていくのかを解き明かすことで生命の仕組みを理解していきます。幅広い興味を持ってワクワク楽しみながら研究を行っています。

大学4年間の
学びの集大成農芸化学科4年
山口 啓

神奈川県立横浜隼人高等学校卒業



4年次では、主に研究室での研究活動を行う1年間になります。卒業研究のテーマについて指導教員や研究室のメンバーとともに実験やディスカッションを通じて知見を深めています。そして、大学生活で身につけた知識や技術を総動員して、卒業研究に臨みます。卒業研究だけでなく、就職活動や進学など、次のステージを見据えた活動も同時並行で実施する、大学4年間の集大成となります。

〈 時間割の例(4年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	生命システム工学	食品健康科学	卒業研究	卒業研究	卒業研究
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
2	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
2	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
3	卒業研究	卒業研究	研究ゼミ	生物物理学特論	卒業研究	卒業研究
3	卒業研究	卒業研究	研究ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究
4	卒業研究	卒業研究	文献ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究
4	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
5	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
5	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究

研究室REPORT

発酵食品学研究室

発酵食品を作る微生物の新たな機能の発見に向けて

当研究室では発酵食品を作る微生物が持つ新しい機能を明らかにする研究をしています。乳酸菌やビフィズス菌など、ヒトの健康に寄与する微生物として知られていますが、まだまだ明らかにされていない遺伝子があります。遺伝子や酵素の解析を行って新しい機能を明らかにし、発酵食品の健康効果について重要な知見を得ることを目指しています。



担当教員より

山田 千早
専任講師

乳酸菌やビフィズス菌、腸内細菌を対象として、新しい機能を発見したときのドキドキ感をぜひ学生にも味わって欲しいと考えています。将来的には、ヒトの健康につながり、教科書に載るような大発見になればと思って学生とともに日々研究しています。

卒業生からのメッセージ

多彩な学びで見つけた自分の道

2022年
農芸化学科卒業
2024年
農学研究科 農芸化学専攻
博士前期課程 修了

木崎 玲奈

サントリーホールディングス株式会社・
安全性科学センター



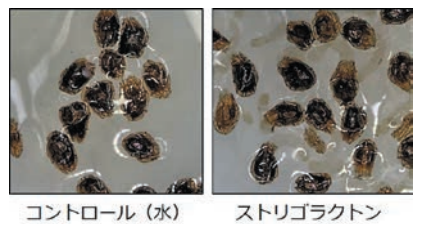
私は漠然と食品分野に興味を持って入学しましたが、幅広い分野に触れる中で、自分の本当にやりたいことを見つけることができました。3年次に研究室に配属され、授業で得た知識を基に、自分の専門分野を深めることができました。そんな多様な学びを経て現在は飲料メーカーで品質管理に携わり、学生時代の学びが活かしています。明治大学の充実したカリキュラムを通じて、皆さんもきっと自分の興味や目標を見つけられると思います。

TOPICS

寄生植物の生存戦略を解明し、農作物を守る

根寄生植物の巧みな生存戦略

根寄生植物と呼ばれる植物は、他の植物の根に侵入し、寄生した相手から水や養分を奪い取って生育します。中には、光合成能を失った寄生植物も存在し、すべての水や養分を寄生した相手に依存して生育します。アフリカ等の地域では農作物に寄生し、年間1000億円以上の被害をもたらしており、日本では農業被害の報告はありませんが、外来種のヤセウツボが様々な地域で生育しています。これら根寄生植物は、寄生する相手の根から分泌されるストリゴラクトンと呼ばれる化学分子を認識して発芽する、という特徴的な発芽システムを有しています。これにより、寄生する相手が近くに存在する時にのみ発芽することが可能になっています。ストリゴラクトンは、本来植物の枝分かれを制御するホルモン分子、かつ、植物にとって重要な共生微生物との共生を促進するシグナル分子として機能しますが、根寄生植物はこの本来植物の生育にとって重要な分子を自身の発芽のために悪用していると言えます。根寄生植物が有する、この巧妙な生存戦略を分子レベルで解明することで、このメカニズムを逆手にとった効果的な防除法の開発を目指して研究を進めています。(瀬戸義哉准教授)



根寄生植物の一種であるヤセウツボにストリゴラクトンを添加して発芽した様子を顕微鏡で観察した図

インタビュー動画

農芸化学科卒業生の活躍の様子ははこちらから

<https://meijinow.jp/senior/obog/91540>



DATAでわかる農芸化学科

■ 在籍状況 (2024年4月1日現在)

	男子	女子	合計
1年	51(33%)名	105(67%)名	156名
2年	44(26%)名	125(74%)名	169名
3年	48(34%)名	94(66%)名	142名
4年	49(32%)名	103(68%)名	152名
合計	192(31%)名	427(69%)名	619名

■ 研究室状況 (2024年4月1日現在)

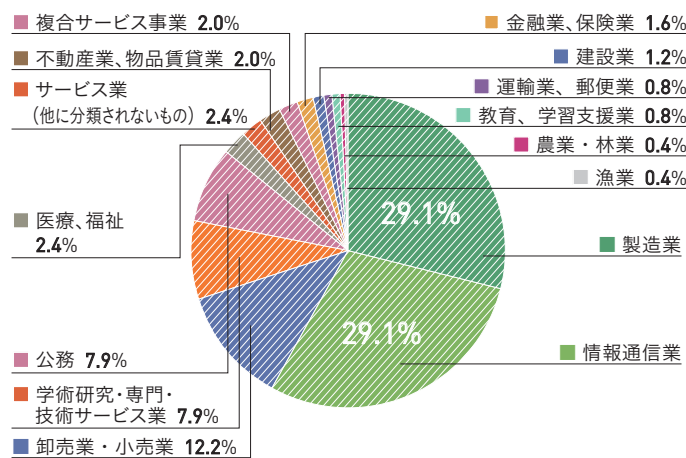
研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
18	13人	92.8%

■ 2021年度～2023年度進路状況



■ 2021年度～2023年度就職実績

※グラフ内のパーセンテージは四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。



■ 2021年度～2023年度主な就職先 (大学院生を含む)

・NECソリューションイノベータ(株)	・(株)日立システムズ	・ライオン(株)
・全国農業(協組連)本所	・国家公務員(一般職)	・共立製薬(株)
・(一財)日本食品分析センター	・(株)エヌ・ティ・ティ・データ	・食品衛生監視員
・エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	・(株)ニチレイフーズ	・雪印メグミルク(株)
・デリカフーズ(株)	・(株)ファンケル	・大塚製薬(株)
・日清オイリオグループ(株)	・(株)ユニカフェ	・富士通Japan(株)
・(株)東ハト	・カネコ種苗(株)	

[農芸化学科の教育・研究スタッフ]

天然物有機化学研究室

生物間相互作用物質をつきとめる

荒谷 博 教授/博士(農学)

生物は生合成した多様な化合物を周辺へ放出し、他生物へ様々な影響を与えています。これらの物質の解明は「宝探し」に似ています。



ケミカルバイオロジー研究室

生物の持つ物質生産能力に迫る

久城 哲夫 教授/博士(薬学)

植物や微生物がつくり出す有用成分の生合成と、遺伝暗号の成立に不可欠なアミノアシルtRNA合成酵素の新規機能の探索研究を行っています。



微生物生態学研究室

麹菌の細胞表面タンパク質ハイドロフォービンの機能解析と新素材への応用

中島 春紫 教授/農学博士

麹菌というカビは働き者で食べても安全。麹菌の細胞表面で水を弾く謎のタンパク質の機能の解明と新素材開発を目指しています。



微生物化学研究室

スーパー微生物を探し出そう

村上 周一郎 教授/博士(農学)

当研究室では、自然環境から微生物界のスーパーマンを見つけ出し、食品や環境など様々な分野で利用することを目指し、研究を進めています。



土壌圏科学研究室

土壌化学から食糧生産と都市環境保全へ

加藤 雅彦 准教授/博士(農学)

土壌は地球環境を構成する重要な要素です。研究室では、目に見えない土壌の中を研究し、都市環境保全や食糧生産など目に見えることに貢献しています。



植物制御化学研究室

植物ホルモンによる植物の成長制御メカニズムの解明

瀬戸 義哉 准教授/博士(農学)

動くことのできない植物が、ホルモン分子を利用して、環境に適応しながら生きるメカニズムを分子レベルで明らかにします。



生化学

二酸化炭素からプラスチック原料をつくる仕組みに迫る

伊東 昇紀 助教/博士(農学)

ラン藻という微生物は、二酸化炭素からプラスチック原料をつくります。プラスチック原料の増産に向けて、ラン藻の代謝の流れを決める要因の解明に挑戦しています。



生殖生理学・栄養学

不妊症の改善を栄養素・非栄養素の観点から考える

森本 洋武 助教/博士(バイオサイエンス)

不妊症患者の着床環境改善を目指して、生殖生理学と栄養学を結びつけ、脂溶性ビタミンの研究を行っています。



食品機能化学研究室

味覚の不思議に迫る

石丸 喜朗 教授/博士(農学)

味蕾や消化管の細胞が食品などを感知する仕組みを明らかにして、健康に良い食品成分を特定することを目指しています。



ゲノム微生物学研究室

ゲノム発現制御から細胞システムを理解する

島田 友裕 教授/博士(工学)

生命の情報源はゲノムです。そのゲノム情報を利用する仕組みを分子レベルで解明することから、細胞システムの全体像の理解・応用を目指しています。



食品工学研究室

おいしさや食品構造から追究

中村 卓 教授/農学博士

タンパク質・多糖類・油脂の食品構造の制御によるおいしさ(食感と風味)のデザインと効率の食品加工を目指します。



環境分析化学研究室

環境ストレスを化学でとらえる

安保 充 准教授/農学博士

環境という見えにくい分析対象を化学的にとらえられるようにするため、ストレス物質だけでなく、生体の環境応答も研究しています。



栄養生化学研究室

食と脳のコミュニケーションを理解する

金子 賢太郎 准教授/博士(農学)

脳の食欲中枢である視床下部と食成分の相互作用に関する研究を行い、食の持つ健康機能について明らかにすることを目指しています。



植物環境制御学研究室

植物ペプチド分子による栄養吸収およびストレス応答制御機構の解明

田畑 亮 准教授/博士(農学)

植物ペプチド分子の細胞間コミュニケーションにおける役割を解明し、植物の生存戦略を理解するとともに、ペプチドを利用したストレス応答制御を目指します。



ゲノム微生物学

微生物の環境応答から細胞制御を理解する

小林 一幾 助教/博士(理学)

生物は常に環境変化に曝されており、適応するために複雑な制御ネットワークを働えています。その仕組みを明らかにすることで細胞制御の理解・応用を目指しています。



食品安全健康科学研究室

食品成分の機能性を追究

長田 恭一 教授/博士(農学)

ポリフェノール等の食品成分が有する健康維持増進機能、とくに、脂質代謝調節機能について追究しています。



食品生化学研究室

食品の持つ新しい力

竹中 麻子 教授/博士(農学)

食から摂る成分が変わると、体には様々な変化が起こります。このメカニズムを研究し、食品の新しい機能を探索しています。



微生物遺伝学研究室

微生物の無限の可能性を信じて

前田 理久 教授/博士(農学)

微生物はすばらしいパワーを持っています。そのパワーのルーツ、仕組みを研究し、環境にやさしい技術の開発に取り組んでいます。



環境バイオテクノロジー研究室

微細藻類による光と二酸化炭素からのものづくり

小山内 崇 准教授/博士(農学)

ラン藻などの藻類を用いて、光と二酸化炭素からプラスチック原料や水素などの有用物質および再生可能エネルギーを効果的につくる方法の開発を行っています。



生物物理学研究室

生物の持つ暗号文解読への挑戦

鈴木 博実 准教授/理学博士

コンピュータを利用して配列(アミノ酸配列・ゲノム配列)と構造・機能との関連性の解明という暗号文解読に挑戦しています。



発酵食品学研究室

発酵食品の機能性に着目し、腸内細菌を介したヒトに対する健康効果の機構を明らかにする

山田 千早 専任講師/博士(農学)

発酵食品を作る微生物や腸内細菌がどのような機能性成分を作ることヒトの健康に役立っているのかを明らかにすることを目指して研究を行っています。



植物ケミカルバイオロジー

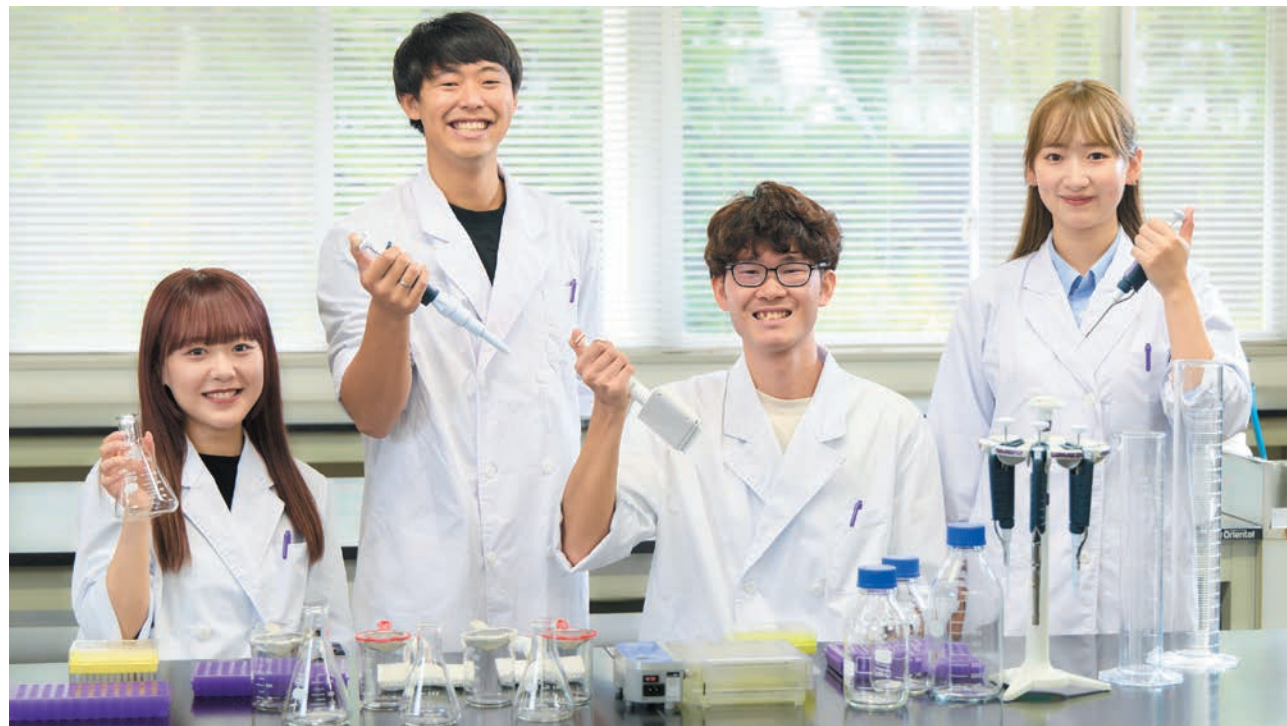
人工分子で植物を操る

西山 康太郎 助教/博士(理学)

分子レベルのものづくりができる化学の力で、植物のすがた・かたちをあやつる「葉」を開発し、植物のしくみの解明や、農業への応用を目指しています。

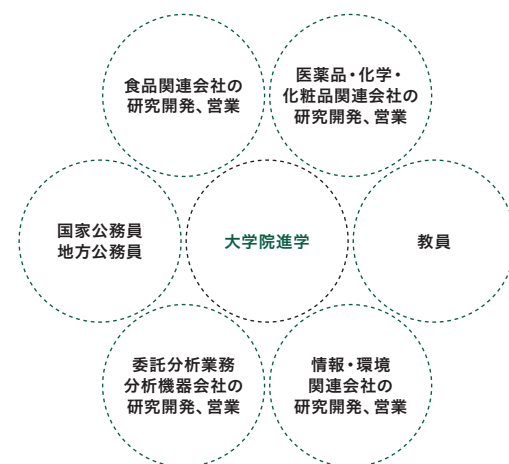


※研究室は退職等により変更となる場合があります。 ※研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。



生命科学科では、動植物や微生物の生命活動を分子レベルや遺伝子レベルから理解することを基盤として、これらを人類が直面している環境や食料問題などの解決に活用することを目指しています。本学科では、生命科学の分野で専門家として活躍する人材や、生命科学の素養と同時に広い視野と総合的な判断力を持った人材の育成を進めています。こうした目標を達成するために、段階的な学習プログラムを用意しているのも本学科の特長といっていでしょう。1・2年次は、基礎から専門分野までを体系的に学ぶことができる授業と実験のカリキュラムを組み、3年次からは各自が興味を持った研究室に属して最先端の設備と技術を駆使しながら卒業研究に取り組むことになります。生命の謎に好奇心を持ち、生物の持つ能力を人類のために役立てたいと考える、意欲的な学生を歓迎します。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ



幼少期に感じた生き物の
“何故？”をサイエンスの
視点で観て学ぶ

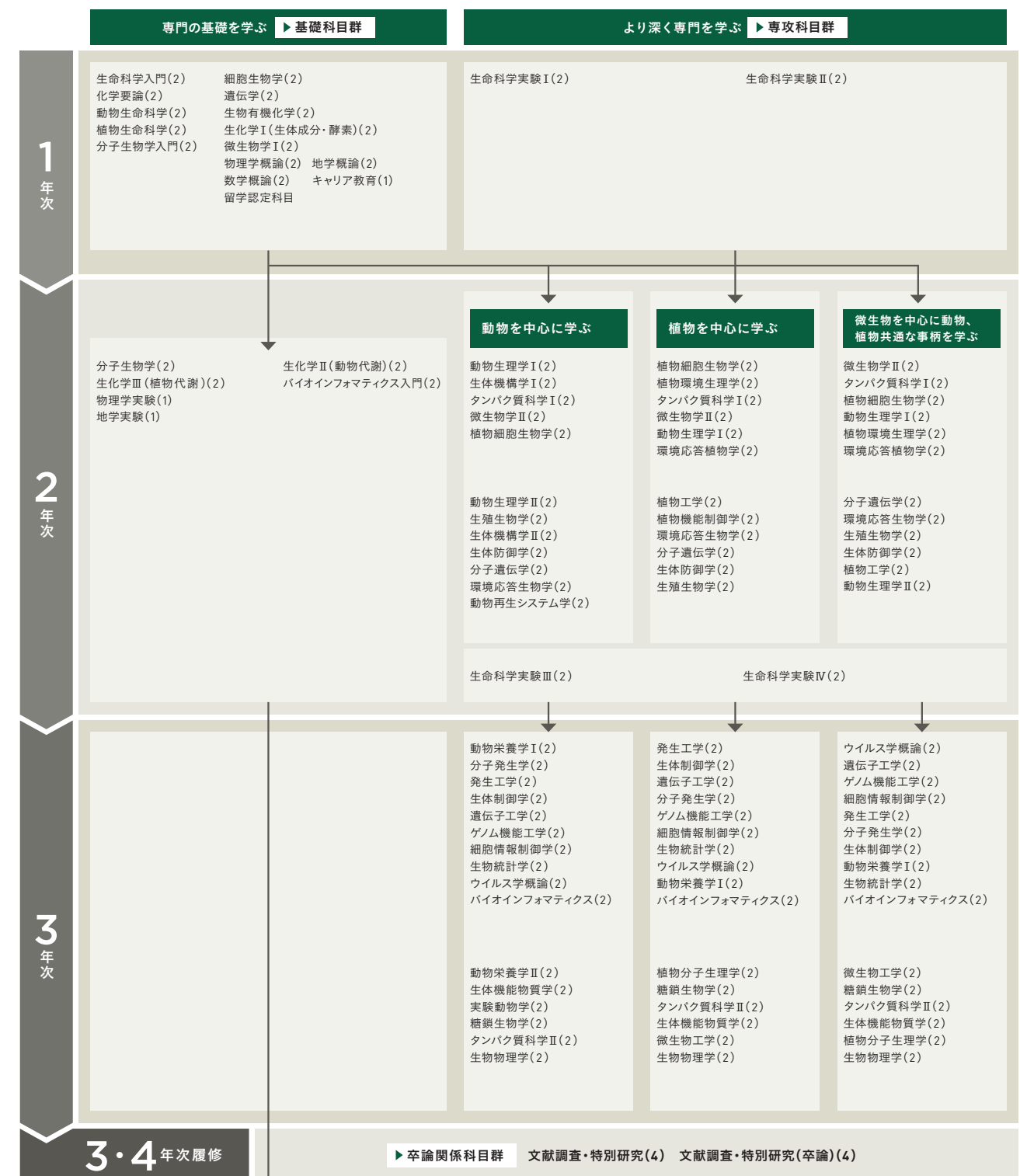
環境応答生物学研究室
吉本 光希 教授

生命科学とはどのような学問でしょうか？様々な生物が見せる生命現象の原理と仕組みを遺伝子や細胞といったレベルで研究・解明し、そこで得た知識を人々の暮らしや産業に役立てようとする学問です。

生命科学科では、微生物、植物、動物の生命現象の仕組みを分子レベルで包括的に学ぶことで、知的好奇心を満たすことができるとともに、食料危機や環境破壊、資源枯渇、感染症などの現代社会が抱える様々な課題の解決に貢献するための知識を修得することができます。また、研究活動を通じて、社会で活躍するために必要な企画立案・遂行能力および課題解決能力を養うことができます。

サイエンスはエンターテインメントの一つであると言えるかと思います。ぜひ、私たちと一緒にサイエンスを enjoy しましょう！

〔 学科主要科目 〕



生命科学分野の専門家（大学院、研究者） 生命科学分野の基礎知識を持った公務員、企業人、教員等

※カリキュラムは変更となる場合があります。 ※（ ）内は単位数。

詳しくはホームページへ。

https://www.meiji.ac.jp/agri/department/life_science/cr_life.html



[生命科学科の4年間の学び]

1 年次

基礎を学び、
興味を見つける

生命科学科1年

泰田 真太郎

広島県私立広島城北高等学校卒業



1年次では、生命科学の基礎を学びます。講義を自由に受けることができ、高校生物で習ったDNAやタンパク質といった分子レベルの生命現象についてより深く学ぶことができます。また、生命科学実験では、先生方が専門に研究されている分野についての実験を行います。色んな角度から生命科学について触れる機会があるので、自分が本当に興味を持てる分野を見つける環境が整っています。

〈 時間割の例(1年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	生物学基礎	化学基礎 民俗学	—	英語IIa 英語コミュニケーション	フランス語Ia フランス語Ib	—
2	動物生命科学	フランス語IIa	英語III	日本語表現A	英語Ia	—
2	細胞生物学	フランス語IIa	—	生化学I	英語Ib	—
3	生命科学実験I	スポーツ実習I	化学要論	微生物学I	生命科学実験I	—
3	生命科学実験II	遺伝学	—	生物有機化学	生命科学実験II	—
4	生命科学実験I	分子生物学入門	—	—	生命科学実験I	—
4	生命科学実験II	健康科学	—	—	生命科学実験II	—
5	—	—	—	—	生命科学入門	—

授業紹介

植物生命科学

植物の生命活動を学ぶ

植物は、動物とは異なる独自の体制を進化させることで、様々な環境での生存を可能にできました。近年の植物科学の進展により、こうした特性が遺伝子や分子レベルで明らかになりつつあります。本講義では、植物の構造や発生・分化、環境応答、生物間相互作用などの基礎知識を学び、植物の生命過程への理解を深めます。また、細胞、組織、器官レベルで植物の成り立ちを理解し、光合成、植物ホルモン、胚発生、種子形成、花の発生など、他の生物に見られない植物特有の性質について学ぶことができます。(高橋直紀准教授)



2 年次

未来の自分を作る
第一段階

生命科学科2年

笠原 桃子

愛知県立瑞陵高等学校卒業



2年次は、自分の興味を深め進路を考える大切な1年です。授業は1年次に比べて専門性が高くなり難易度も上がりますが、その分面白さや魅力を実感できる機会が増えます。興味のある分野を見つけたら、授業で得た知識以上の学びを追求したり、積極的に研究室を訪問したりして知識を深めていきます。大学生活に慣れ時間に余裕ができる2年次は、進路についてじっくり考えるための貴重な時期です。

〈 時間割の例(2年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	分子生物学	—	英語IIa 英語IIb	ICTベーシックI ICTベーシックII	生体機構学I 植物工学	—
2	英語III	—	微生物学II	植物環境生理学	—	—
2	食品化学	生体防御学	バイオインフォマティクス入門	植物機能制御学	生体機構学II	—
3	タンパク質科学I	生命科学実験III	生命科学実験III	—	—	—
3	動物再生システム学	生命科学実験IV	生命科学実験IV	生物有機化学	—	—
4	—	生命科学実験III	生命科学実験III	—	—	—
4	生殖生物学	生命科学実験IV	生命科学実験IV	—	—	—
5	—	—	動物生理学I	—	生化学II (動物代謝)	—
5	—	分子遺伝学	動物生理学II	—	—	—

授業紹介

生体機構学Ⅰ・Ⅱ

人体の構造と機能を学ぶ

私たちヒトの身体は、約37兆個の細胞から構成されると言われており、形態が異なっていたり、ユニークな機能を発揮するものなど様々です。細胞は集合し組織を形成するものもあり、複数の組織が集まり器官を作り上げ、さらに複数の器官が機能的に連携することで器官系を成し、これらが統合されることで人体という一つの生命体が成立しています。生体機構学Ⅰ・Ⅱでは、人体の様々な部位を対象にその構造に関する解剖学的知識を身につけるとともに、統合生理機能を担う免疫系・神経系・内分泌系の機能や仕組みを学び、動物生命科学分野の基盤となる基礎学力を養うことを目標にしています。

(長竹貴広准教授)



興味を深めて
追求していく

生命科学科3年

岡 俊介

東京都私立明治大学付属中野高等学校卒業



3年次からは1・2年次で学んだことを中心に、より専門的な内容を学んでいくことになります。授業の選択もより自由になるため、興味を持った分野に関してさらに深い造詣を得ることができます。また、3年次から研究室での活動が始まります。自分のテーマに関して知識を積み重ねるとともに、先輩や先生方にサポートしていただきながら研究を始めていく1年になります。

〈 時間割の例(3年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

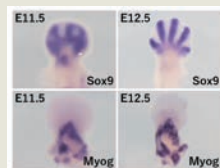
	月	火	水	木	金	土
1	動物栄養学I	—	ウイルス学概論	—	—	—
1	動物栄養学II	遺伝子工学(生命)	—	生体機能物質学	—	—
2	日本文学	—	発酵食品学	細胞情報制御学	卒業研究	—
2	タンパク質科学II	卒業研究	バイオインフォマティクス入門	卒業研究	卒業研究	—
3	卒業研究	生体制御学	宗教の哲学	卒業研究	文芸思潮	—
3	卒業研究	糖鎖生物学	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
4	—	農業経済初步概説	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	—
4	—	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
5	—	卒業研究	卒業研究	卒業研究	生化学II (動物代謝)	—
5	—	卒業研究	卒業研究	卒業研究	研究室ゼミ	—

研究室REPORT

動物再生システム学研究室

生物を形作るメカニズム

本研究室では、動物の形態形成に興味を持ち、動物の筋肉・骨・腱などの運動器の形態が正確に形作られるメカニズムについて研究しています。動物の形態は種によって非常に多様ですが、一つの種でみると、驚くほど均一になっています。その均一さの仕組みは、受精卵から形が作られる過程にあると我々は考えています。筋肉・骨・腱をモデルとして、それらの形態が正確に形作られる仕組みを個体や細胞、分子レベルで理解することを目的として研究を進めています。



担当教員より

乾 雅史
教授

当研究室では運動器を構成する筋・腱・骨の形作りと機能の維持について研究をしています。運動器の形や機能について理解することで、高齢化社会における健康寿命の延伸への貢献や、動物の多様な形態への新たな洞察が期待されます。

大学生活の
集大成を飾る1年

生命科学科4年

栗原 小佳

神奈川県立厚木高等学校卒業



4年次は、研究室での活動が主となります。各自興味のあるテーマで計画を立てて実験を進めていきます。文献調査をしたり、先生や先輩と相談しながら進めることで、非常に学びの深い1年となります。期待していた実験結果が得られないこともしばしばありますが、手順を振り返ったり、試薬の量を変えてみたりと試行錯誤した結果、期待していたようなデータが得られた時にはやりがいを感じます。

〈 時間割の例(4年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
2	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
2	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
3	卒業研究	卒業研究	卒業研究	研究室ゼミ	卒業研究	—
3	卒業研究	卒業研究	卒業研究	研究室ゼミ	卒業研究	—
4	卒業研究	哲学概論	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
4	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
5	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—
5	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	—

研究室REPORT

分子発生学研究室

細胞の恒常性を維持する仕組み

私たちの研究室では、真核細胞の恒常性を維持する仕組みを核酸やタンパク質のレベルで解明しようとしています。その中でも私が注目しているのは、タンパク質の品質管理にはたらく「異常タンパク質応答」とバルク分解にはたらく「オートファジー」です。これらの誘導には多種多様な遺伝子が関与しており、それら遺伝子の発現や機能の異常が、がんをはじめとした様々な疾患にいかに関与するか解明を目指して研究を進めています。



担当教員より

吉田 健一
教授

細胞内で絶えず合成される核酸やタンパク質を監視し、異常があれば排除するしくみが細胞とともに進化しました。当研究室は、異常タンパク質応答やオートファジーといった生命現象に興味を持っており、教員と学生で協力しながら研究を進めています。

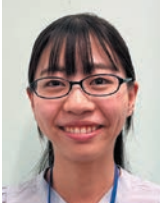
卒業生からのメッセージ

未来につながる学びと経験

2022年
生命科学科卒業
2024年
農学研究科 生命科学専攻
博士前期課程 修了

飯森 萌

イービーエス株式会社 臨床開発事業本部
モニタリングセンター モニタリング9部



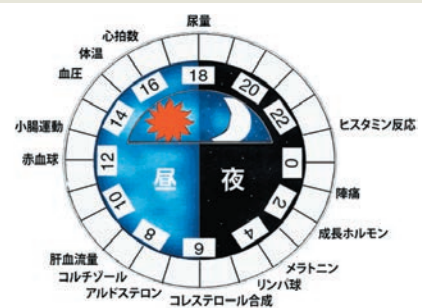
生命科学科では多様な生物とその体内での細かな生命現象について講義と実験を通じて幅広く学びました。特に研究室では、幾重もの実験や国内外の学会参加から、1つのテーマを深く追求することの楽しさと難しさを経験しました。現在、新薬を開発する治験に携わり、大学で学んだ知識や経験が薬の作用機序の理解や医療関係者への説明に役立っています。皆さんが生命科学科で充実した学生生活を送れるよう応援しています。

TOPICS

生命の基本原理を解明する

生体リズムの研究

私たちは、自転し太陽の周りを公転する地球に住んでいます。他の惑星も自転・公転をしています。そのため、私たちは様々な惑星運動に伴う周期的な変動の影響を受けながら生活しています。生物が誕生してから約38億年とされていますが、その間、生物はそれらの周期性(リズム)にうまく適応できるように進化してきました。現在、地球上に住むほとんどのすべての生物の機能や行動には、何らかのリズムが認められます。言い換えると、リズムを持たない生物は周期変動を伴う地球環境に適応できず淘汰されたと考えられます。そのリズムの中でも、私たちの体に最も強い影響を与えているのは、地球の自転の周期、すなわち1日のリズムです。「1日1回、寝て起きる」を繰り返していることは、そのリズムを感じることができる行動・生理機能の一つですが、その他の機能も1日の周期で変動し、決まった時刻にベストパフォーマンスを発揮できるように体内時計によって規定されています。私の研究室では、「からだのリズムを知って活用する」をスローガンに1日から1年のリズムまで幅広い生体リズムの仕組みを分子・細胞・行動レベルで解明する研究を行い、活用方法を開発しています。(中村孝博教授)



図：ヒトの生理機能の日内リズム
一周24時間の時計にヒトの生理機能のピーク時刻を記している。多くの生理機能に1日周期のリズムが認められる。たとえば、成長ホルモンの血中濃度は午前2時にピークを持つリズムが認められる。

インタビュー動画

生命科学科卒業生の活躍の様子ははこちらから
<https://meijinow.jp/senior/obog/91542>



DATAでわかる生命科学科

■ 在籍状況 (2024年4月1日現在)

	男子	女子	合計
1年	85(54%)名	73(46%)名	158名
2年	82(52%)名	76(48%)名	158名
3年	80(56%)名	62(44%)名	142名
4年	83(53%)名	73(47%)名	156名
合計	330(54%)名	284(46%)名	614名

■ 研究室状況 (2024年4月1日現在)

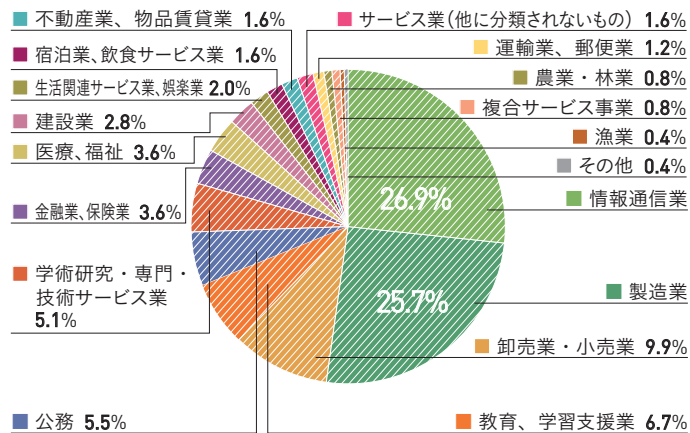
研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
17	13人	87.8%

■ 2021年度～2023年度進路状況



■ 2021年度～2023年度就職実績

※グラフ内のパーセンテージは四捨五入されているため、合計しても100%にならない場合があります。



■ 2021年度～2023年度主な就職先 (大学院生を含む)

・国家公務員(総合職)	・日本ハム(株)	・エーザイ(株)
・国家公務員(一般職)	・(株)明治	・興和(株)
・東京都教育委員会	・(株)ヤクルト本社	・富士通(株)
・サントリーホールディングス	・(株)Mizkan	・旭化成(株)
・キリンホールディングス	・(株)資生堂	・(株)NTTデータ・アイ
・アサヒビール(株)	・ライオン(株)	・(株)KSK
・日清オイリオグループ(株)	・第一三共ヘルスケア(株)	

[生命科学科の教育・研究スタッフ]

動物栄養学研究室

微生物のちからで
キレイに健康に

浅沼 成人 教授／博士(農学)

バイオテクノロジーを駆使して有益な微生物を作出し、①健康と美容、②環境問題、③食糧生産に役立てる研究を行っています。



環境応答植物学研究室

植物の“生きる”知恵を探る

賀来 華江 教授／学術博士

植物の外敵識別機構およびその情報シグナル伝達系の解明を目指し、地球環境にやさしい作物の開発の基礎研究に貢献します。



プロテオミクス研究室

プロテオミクスから
探る生命科学

紀藤 圭治 教授／博士(理学)

タンパク質の系統的解析から生命現象を探るプロテオミクス研究に、質量分析を用いた独自の解析手法を駆使して取り組んでいます。



動物生理学研究室

からだのリズムを知って
活用する

中村 孝博 教授／博士(農学)

体内時計の仕組みを解明し、生体機能の日内変動に即した最適な投薬・給餌時刻を見つけ、医療・農業への貢献を目指しています。



環境応答植物学研究室

植物の高次生命現象を分子・
オルガナレベルで解き明かす

吉本 光希 教授／博士(食品栄養学)

植物の環境適応における細胞内自己分解系(主にオートファジー)の重要性を、多角的なアプローチによって明らかにしようとしています。



植物発生制御学研究室

植物細胞が働くしくみを
理解する

田中 博和 准教授／博士(理学)

植物の形態形成と細胞機能を支えるしくみについて、タンパク質の配置の制御に注目して研究しています。



生体制御学

初期胚や生殖細胞の
品質管理

佐藤 伴 助教／博士(医学)

生命の萌芽である初期胚や生殖細胞の品質管理がどのように行われているかについて、遺伝子改変マウスを用いて研究しています。最終的には医療への貢献を目指しています。



動物再生システム学研究室

個体の形を決める細胞間の
コミュニケーション

乾 雅史 教授／博士(理学)

脊椎動物の形態形成について筋骨格系をモデルとして、細胞・組織間コミュニケーションの観点から研究しています。



植物分子生理学研究室

温度は植物成長の
シグナル

川上 直人 教授／農学博士

種子の発芽や花の形成は温度に左右されます。温度を感じて成長を制御する仕組みを明らかにし、気候変動への対応を考えます。



細胞情報制御学研究室

体の機能を調節する
新たな仕組みを探る

戸村 秀明 教授／理学博士

動物に備わる新たな生体調節機能の解明を目指し、ホルモンを代表とする生理活性物質に対する受容体を介した情報伝達系を解析しています。



微生物工学研究室

多様な微生物の
新しい機能を探る

浜本 牧子 教授／農学博士

海洋酵母(新たな遺伝資源)の健康や環境への活用と分裂酵母(有用モデル生物)の新規機能遺伝子の機能解明を目指しています。



生体機能物質学研究室

疾病の原因となる
生体内化学反応

渡辺 寛人 教授／博士(農学)

生体内に蓄積するアミノカルボニル反応生成物の生理作用を研究し、糖尿病合併症発症機構の一端を解明することを目指しています。



生体機構学研究室

食を介した免疫・アレルギー・
炎症反応の制御

長竹 貴広 准教授／博士(医学)

オメガ3脂肪酸やビタミンなどの食要素が免疫システムの発達や制御に働く新たな分子メカニズムを解明することを目指しています。



ゲノム機能工学

生体マトリクスの制御機構

大和屋 健二 助教／博士(医学)

生体を構成する分子の挙動はすべて遺伝情報としてコードされています。それらを操作・調節することによって細胞膜や結合組織といった生体マトリクスの制御機構を明らかにし、疾患の診断・治療を含めた応用を目指しています。



ゲノム機能工学研究室

細胞・体の個性を決める
エピジェネティクス

大鐘 潤 教授／博士(農学)

機能性RNA等を利用したエピジェネティック改変により動物のゲノム機能を人為的に調節し、有用細胞・家畜や病態モデル動物の作出を目指します。



生体制御学研究室

生命誕生の原理を探る

河野 菜摘子 教授／博士(理学)

遺伝子改変マウスを用いて、体内でおこる受精の仕組みを調べています。鍵となる分子を見つけ出し、医療への貢献を目指しています。



メディカル・バイオエンジニアリング研究室

生殖と再生医学を
発生工学で結ぶ

長嶋 比呂志 教授／農学博士

体細胞クローニングやトランスジェニック動物の作出を通じて、再生・移植・生殖医療や動物資源保存に役立つ研究を行います。



分子発生学研究室

動物細胞の運命を
分子レベルで探る

吉田 健一 教授／博士(医学)

核酸やタンパク質といった有機分子が、動物の発生をいかに制御しているのか、細胞の分化・増殖機構に注目して研究しています。



植物適応制御学研究室

植物の巧みな環境適応戦略

高橋 直紀 准教授／博士(工学)

植物が環境ストレスにどのように対処することで、変動する環境下での生存を可能にしているのかを明らかにしようとしています。



健康科学

身体運動を支える
関節の機能維持

荒川 航平 助教／博士(健康科学)

関節軟骨の変性メカニズムと予防法について、機械的刺激(メカニカルストレス)との関連を軸に研究を行っています。

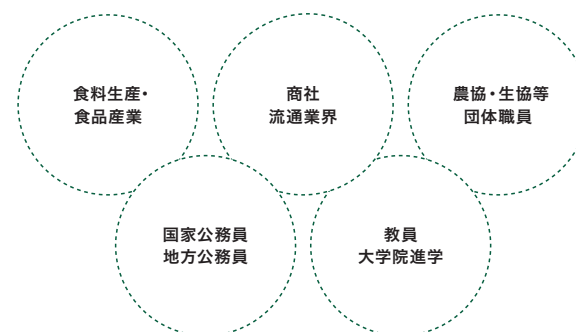


※ 研究室は退職等により変更となる場合があります。 ※ 研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。



21世紀に私たちが生きていくうえで、最も基礎的で重要な「食料」と「環境」をめぐる諸問題について、経済学、社会学、政策学、経営学、会計学、開発学などの社会科学の側面から総合的に研究しています。私たちの生存基盤を担っている生物・生命・自然資源の仕組みを解明し、利用することは人類の持続可能性に欠かせませんが、そこに人間がどうかかわっていくべきか、を考えることは重要です。つまり「人類の生存課題を人間の行動の観点から考え、解決方法を探る」のが本学科の学びのテーマといってもいいでしょう。こうした視点を持った人材を育成するために本学科では、様々な座学だけでなく、農場実習、ファームステイ実習、フィールドワーク実習、海外農業体験など、現場を体験しながら学べる科目を数多く用意し、応用力・実践力を養うことを重視しています。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ

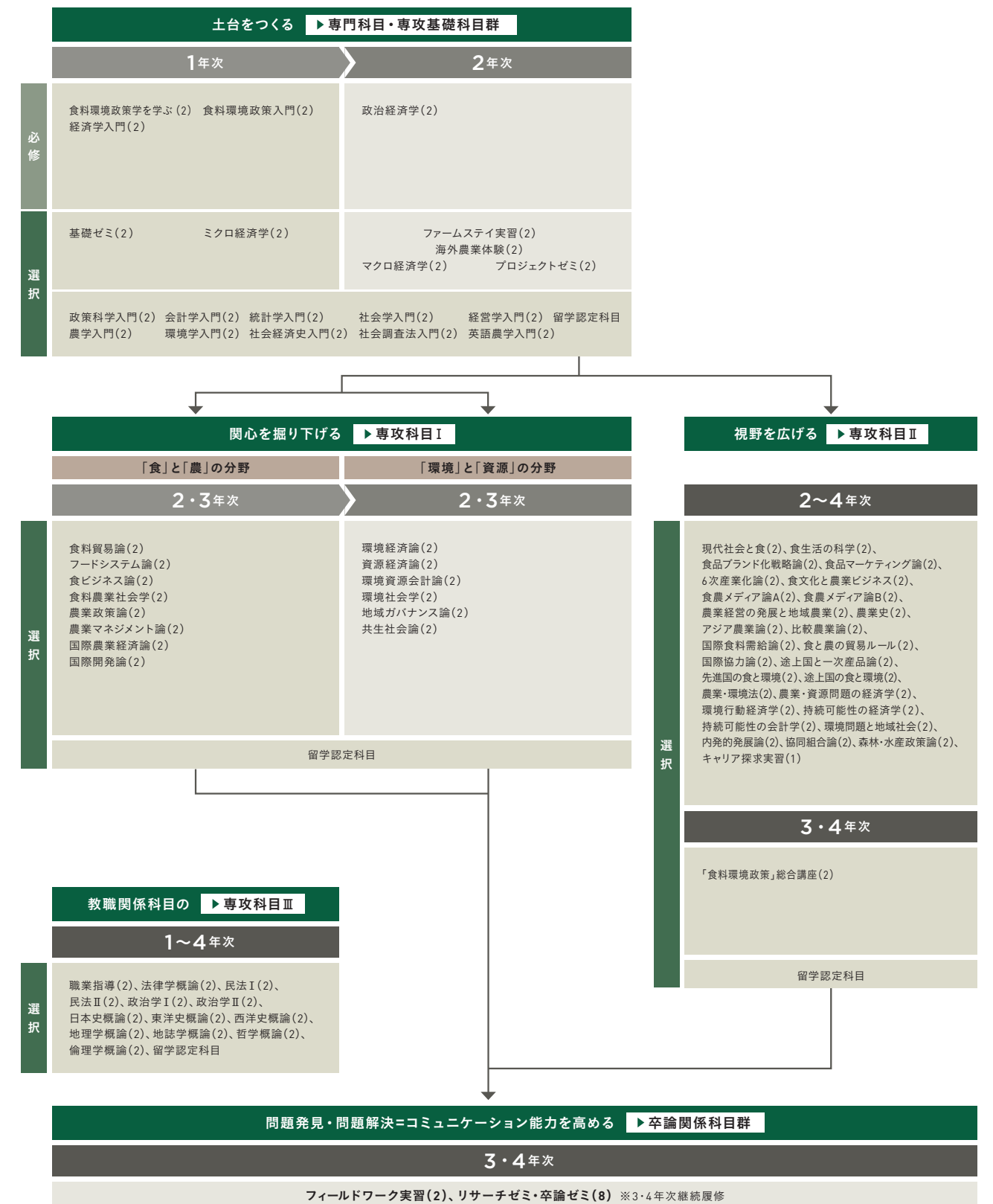


食料・環境問題を
多面的に
考えるための接点

フードシステム論研究室
大江 徹男 教授

食料環境政策学科は3つの接点を重視しています。1つ目は自然科学と社会科学の接点です。「食と農」「環境と資源」というテーマを、農学の社会科学分野という特色を活かして、研究・教育をします。2つ目は現場と大学の接点です。農場実習(1年次)、ファームステイ実習(2年次)、フィールドワーク実習(3年次)では社会を取り巻く実情を知ることができます。3つ目は学生と教員の接点です。教員の研究室の隣には学生が自由に使えるゼミ室があり、両者の関係は濃密です。このような様々な接点を通して、課題を自発的に熟考し、行動する。自分自身が大きく成長できる学科です。

[学科主要科目]



※カリキュラムは変更となる場合があります。※()内は単位数。

詳しくはホームページへ。

https://www.meiji.ac.jp/agri/departament/agri_policy/cr_seisaku.html



[食料環境政策学科の4年間の学び]

1 年次

幅広く奥深い
「農」の世界の入口

食料環境政策学科1年
大津 慈弥
茨城県立水戸第一高等学校卒業



1年次には農学への入口としての基礎科目を主に学んでいきます。農業に関連する様々な事例を1から学ぶことができるため、農業に関する知識が全くない人でも安心です。食料環境政策学科では農業や食料を取り巻く環境を多様な角度から学びます。一般的な「農業」というイメージに捉われない、豊富な学びの選択肢が用意されていることがこの学科最大の魅力だと感じています。

〈 時間割の例(1年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	食料環境政策学を学ぶ	農学入門	ドイツ語IIa	農場実習	—	—
			ドイツ語IIb	農場実習		
2	ドイツ語Ia	スポーツ実習I	経済学入門	農場実習	基礎ゼミ	—
	ドイツ語Ib		日本の歴史B	農場実習		
3	—	英語Ia	英語III	—	アグリサイエンス論	—
		英語Ib	外国文学		フィールド先端農学	
4		社会調査法入門	日本の歴史A	ICTベシックI (M)		—
	環境学入門	健康科学	日本文学	ICTベシックII (M)	食料環境政策入門	
5	—	—	—	—	—	—

授業紹介

食料環境政策入門

農水省で政策形成にも従事した教員による
実践的な授業

この授業は、食料環境政策学科の1年生を対象とした必修科目です。日本の食料・農業・農村の現状と政策について、農林水産省が毎年刊行する『食料・農業・農村白書』を教科書としつつ、動画や新聞記事もふんだんに活用することで、予備知識が乏しい1年生にも興味を引く授業を心がけています。担当教員は、本学への着任前には農林水産省に長く勤務して白書も執筆しており、授業ではそうした豊富な実務経験も紹介します。また、最新の白書を執筆した農林水産省の現役官僚を招き、白書の特集を解説してもらいます。この科目を受講すれば、2年次以降の専攻科目の履修に必要な体系的な知識が得られます。(作山巧教授)



百聞は一見に如かず

食料環境政策学科2年
秋山 佳音
東京都私立多摩大学聖ヶ丘高等学校卒業



2年次では、「アジア農業論」や「比較農業論」などの講義を通じて、国内外の農業と経済について学ぶことができます。さらに、「ファームステイ実習」と「海外農業体験」に参加することも可能です。特に、モンゴルでの「海外農業体験」では、発展途上国としての課題に直面するとともに、その奥深さ、おもしろさに惹かれました。この体験を通じて、世界は行かなければわからないことだらけであり、自分の足で歩き、自分の目で見ることの重要性を実感しました。「百聞は一見に如かず」という言葉をまさに体感する学びでした。

〈 時間割の例(2年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	先進国の食と環境	共生社会論 環境行動経済学	—	英語IIa 英語IIb	—	—
2	地域ガバナンス論 農業・食料問題の経済学	食料農業社会学	食文化と農業ビジネス	資源経済論 農業マネジメント論 農業史 プロジェクトゼミ	—	—
3	食ビジネス論 アジア農業論	—	—	英語III 政治経済学 比較農業論 環境問題と地域社会	—	—
4	食料貿易論	健康科学	会計学入門	—	—	—
5	—	—	ICTベシックI (M) ICTベシックII (M)	—	—	—
集中講義	ファームステイ実習・海外農業体験					

授業紹介

海外農業体験

海外で学ぶ機会も用意されています

海外農業体験は、実際に海外で農作業を体験したり、現地の農家や農業企業と交流することを通じて、海外の農業や社会、経済に関する理解を深めることを目的とする実習科目です。この科目は、事前学習、1週間の海外現地実習、現地実習後のレポート作成から構成されています。コロナ禍で一時中断していましたが、2024年度はモンゴル国で実習を行い、遊牧生活体験、JICA事務所や大学への訪問、市場見学や工場見学などを通じて、学びを深めました。学生達は、厳しい自然環境や首都ウランバートルの大気汚染、慣れない羊肉と乳製品中心の食生活にもめげず、積極的に実習に参加し、多くのことを学びました。(院剛専任講師)



充実した研究室によって
開花する探究心

食料環境政策学科3年
吉田 颯良
東京都私立明治大学付属中野高等学校卒業



食料環境政策学科の最大の魅力は、3年次から始まる研究室活動です。1・2年次で習得した講義の基礎知識をもとに、自身が関心を持つテーマに沿って研究を進めるため、各自が研究室を選択します。私が所属している研究室では、海外の食文化や地方創生に関する研究を、日本との比較を通じて行います。どの国で調査を行うのが最適か、研究室のメンバーと話し合いながら決定します。この過程を通じて、自ら考え、行動する主体性を養うことができます。

〈 時間割の例(3年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	—	共生社会論 環境行動経済学	環境資源会計論	—	—	—
2		ICTベシックI (M)	食文化と農業ビジネス	北米地域市場論	—	—
3	内発的発展論	現代社会と食	—	ジェンダーと法A	—	—
4	ゼミナール	英語Ib	—	環境問題と地域社会	—	—
5	ゼミナール	—	—	哲学基礎論	—	—
5	—	—	国際交流(世界のキッチンから) (M)	—	—	—

研究室REPORT

食料農業社会学研究室

先進地でいったい何が起こっているのか見てみよう

本研究室では、世界の最先端の食文化を探究することを目的とし、実際に現地へ赴き、調査と体験を通じて深く学びます。昨年は、食文化の宝庫であり、最高品質の食材で知られるイタリア・パルマを訪問し、その魅力に迫りました。グローバルな視点で食文化の発展を追究し、各国の伝統や技術を実地で学ぶことで、新しい発見と知見を得ることを目指しています。



担当教員より

片野 洋平
准教授

本やインターネットで得られる知識と、実際に現地を訪れ体感する経験は全く異なるものです。体験を通じて初めて得られるリアルな知見こそが、深い理解と洞察をもたらし、学びをより豊かなものにしてくれます。

個性を伸ばし続ける

食料環境政策学科4年
北村 美貴
神奈川県私立桐蔭学園高等学校卒業



食料環境政策学科は4年次になると自分の時間を確保しやすいため、通常の勉強に加えて、様々な活動に参加することが可能です。私は、体育会ラグビー部での活動と卒業論文の調査を両立することに苦戦しました。卒業論文の調査は、思い通りの結果になることは少なく、ゼミ生や先生と相談して紆余曲折しながら論文を執筆しています。また、自分とは異なる分野に興味を持つ友人ができるため、ゼミの中で得られる学びや気づきも多くあります。

〈 時間割の例(4年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	—	—	—	—	—	—
2	—		ゼミナール	—	—	—
3	—	統計学入門	ゼミナール	—	—	—
4	—	環境経済論	ゼミナール	—	—	—
5	—	国際食料供給論	ゼミナール	—	—	—
4	—	環境社会学	フードシステム論 途上国と一次産品論	日本史概論 6次産業化論	—	—
5	—	—	—	—	—	—

研究室REPORT

フードシステム論研究室

安全性とブランド化

本研究室では、通常の食の生産や流通、販売に加え、持続可能性という観点から食品廃棄物の活用や安全性の高い食と農の生産と販売について、地域ブランドという観点を含め重点的に学習しています。実際には、研究室では、食品廃棄物を使ってエコフィードを生産している工場の見学や伝統的な生産方法に基づいた地域の特産品の販売方法に関する企業でのヒアリングなどを実施し、現実的な問題について学習しています。



担当教員より

大江 徹男
教授

ゼミ生には、何よりも自分で様々な事象に興味を持ち、自分の頭で考え、行動することを期待しています。互いに議論をし、共同で作業を行う中から個性や独創性が生まれることから、共同調査など、論文を執筆するまでの過程を大切にしています。

卒業生からのメッセージ

学びを実践できる場所

2017年
食料環境政策学科卒業
若尾 優実

日本生活協同組合連合会
(生活協同組合ユーコープ出向)



生協商品の開発や卸売を担う組織で営業と販促企画の部署を経て、現在は地域生協で菓子と飲料のパイヤーをしています。食品流通の基礎や、作り手の想いの伝え方等、在学中の経験が糧になっています。

本学科の特長は「フィールドワークが豊富」「教授との距離が近いこと」だと感じます。ファームステイをはじめ、ゼミでは村興し、商品開発、懸賞論文等に取り組みました。そして何でも相談できる教授や仲間があるので、何でもチャレンジできる環境です。

TOPICS

卒業論文作成

4年間の学びの集大成に挑む

4年間の学びの集大成となるのが卒業論文の作成です。当学科では3・4年次を通して「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に在籍し、教員の指導を受けながら各自が興味を持ったテーマを究めていきます。卒論のテーマは様々ですが、食料、環境、農業、地域、開発、経済といったキーワードに関するものが多くを占めます。論文作成の過程で悪戦苦闘している姿を見かけますが、自ら得た知識や考え方を文章にまとめる作業は、「何かを伝える、表現するため」のトレーニングにもなります。現地に出向いて行ったヒアリングをもとにしたり、様々な場所で集めたアンケートをもとに物事を論じたりするなど、「足で稼いだ」卒業論文が多いのも、食料環境政策学科の特色といえます。(橋口卓也教授)



インタビュー動画

食料環境政策学科卒業生の活躍の様子ははこちらから
<https://meijinow.jp/senior/obog/91544>



DATAでわかる食料環境政策学科

■ 在籍状況 (2024年4月1日現在)

	男子	女子	合計
1年	77(48%)名	82(52%)名	159名
2年	89(57%)名	66(43%)名	155名
3年	90(55%)名	75(45%)名	165名
4年	85(56%)名	68(44%)名	153名
合計	341(54%)名	291(46%)名	632名

■ 研究室状況 (2024年4月1日現在)

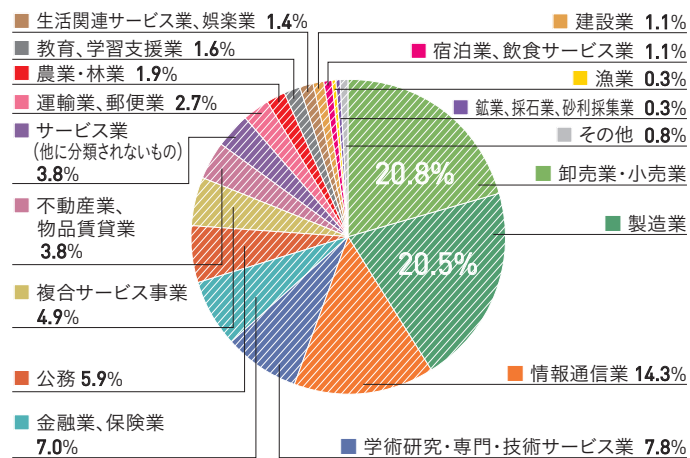
研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
14	19人	88.6%

■ 2021年度～2023年度進路状況

就職者数 370(90.0%)名	進学者数 20(4.9%)名	その他 21(5.1%)名
---------------------	----------------	---------------

■ 2021年度～2023年度就職実績

※グラフ内のパーセンテージは四捨五入されているため、合計しても100%にならない場合があります。



■ 2021年度～2023年度主な就職先 (大学院生を含む)

・三菱食品(株)	・(株)飯急飯神エクスプレス	・東京都農業協同組合中央会
・(株)日本政策金融公庫	・アズビル(株)	・凸版印刷(株)
・全国農業(協組連)本所	・イオンモール(株)	・日本たばこ産業(株)
・NECソリューションイノベータ(株)	・オイシックス・ラ・大地(株)	・日本食研グループ
・国家公務員(一般職)	・パーソルキャリア(株)	・伊藤忠商事(株)
・国分グループ本社(株)	・ユニ・チャーム(株)	・住友商事(株)
・(株)はくばく	・東京都教育委員会	

[食料環境政策学科の教育・研究スタッフ]

国際開発論研究室

開発途上国の飢餓と貧困について考える

池上 彰英教授/博士(農学)

世界には貧しい国と豊かな国があり、飢餓と飽食が併存しています。途上国に関する多様な知識と視点を身につけることが、本研究室の目標です。



地域ガバナンス論研究室

地域の新しい挑戦をより持続的なものとするために

小田切 徳美教授/博士(農学)

いま、農村でも都市でも地域再生の新たな挑戦が始まっています。この動きをさらに持続的なものとするために何をすべきかを考えます。



農業政策論研究室

日本農業の現実と農業政策の立場を考える

橋口 卓也教授/博士(農学)

主に戦後の日本の農業政策の動向を学びつつ、時々政策が農業の現実に対して、いかなる立場をとってきたのか、その背景は何かを考察します。



食料農業社会学研究室

食・農・環境領域の社会現象を観察し、分析し、考察し、提案する

片野 洋平准教授/博士(法学)

食・農・環境領域には解決すべき課題が数多く残されています。学問的にもしろうく、かつ、実社会にも役立つような研究を一緒にしてみませんか。



環境資源会計論研究室

共有価値を創造して社会的課題を解決してみませんか

本所 靖博准教授/修士(商学)

環境と経済の関係を社会にわかりやすく伝えるのが会計。その手法を使ってフィールドに飛び出し、社会的課題を解決してみませんか。



食農メディア論

報道が伝える農業と現場のギャップを知る

樺田 みどり客員教授/農業ジャーナリスト

報道と現場には常に多少のズレが生まれます。自分の実感と判断力で、報道をどうとらえ直すか。その姿勢を養える講座になればと思っています。



環境社会学研究室

農業と環境、環境問題の構図を「社会的に」読み解く

市田 知子教授/博士(農学)

当研究室では、環境に配慮した農業政策を学び、環境問題にかかわる地域住民や自治体などの関係を「社会的に」読み解いていきます。



食料貿易論研究室

グローバルに活躍できる人材を育てる

作山 巧教授/博士(国際経済学)

農水省でのTPP交渉、ロンドンでの大学院留学、パリでの外交官、ローマでの国連職員といった国際経験を活かして、世界で通用する人材を育てます。



資源経済論研究室

経済学を通して農村を取りまく多様な社会問題を考える

藤栄 剛教授/博士(農学)

環境問題など多様な社会問題の解決のためには何が必要とされているのでしょうか。農村を取りまく農業・資源・環境問題を経済学の視点から考えます。



環境経済論研究室

持続可能な食と環境について経済学から接近する

佐々木 宏樹准教授/博士(農学)

持続可能な食料システムの構築に向け、生産・流通・消費の各ステージにおける取り組みについて経済学の視点から追求します。



国際農業経済論研究室

持続可能な農牧業について考える

暁 剛専任講師/博士(農学)

日本、中国、モンゴル国の農耕と牧畜の関係について比較検討を行い、環境と経済が両立する持続可能な農牧業の姿を模索します。



フードシステム論研究室

グローバル下における「農」と「食」について考える

大江 徹男教授/博士(経済学)

当研究室では、グローバル下における農産物・食品の価格形成や流通の実態について考察し、地域間格差や私たちの生活について考えます。



農業マネジメント論研究室

ひとりひとりが農業、農村の応援隊員になろう!

竹本 田持教授/博士(農学)

農家の皆さんとの直接交流を大切にしながら、農業経営の多角化や農業・農村関連ビジネスをキーワードに農村地域活性化を考察しています。



共生社会論研究室

世界の「ムラ」の知恵から競争と共生を考える

岡 通太郎准教授/博士(地域研究)

経済と自然の両立はなぜ難しいのか。豊かさとは一体何か。世界の様々な生活の中から我々が進むべき未来について考えます。



食ビジネス論研究室

食ビジネスを経済学的に考える

中嶋 晋作准教授/博士(農学)

ローカルには農産物直売所、グローバルには多国籍アグリビジネスまで、農や食にかかわるビジネスについて、経済学的に考えます。



農村社会学

農業・農村を支える「人」に注目して

高地 紗世助教/博士(農学)

異なる経験や価値観を持つ他者と尊重しあっていくにはどうすればいいのでしょうか?「当たり前」を問い直し、模索しましょう。



食料環境政策学科のホームページはこちら!

<https://agri-policy.jp/>





総合科目は専門の枠を越え、農学部的全学生を対象にした科目です。これらは各学科の専門科目と対をなし、すべての学問領域の基礎となる重要な科目でもあります。内容は人文科学、社会科学、自然科学など幅広い教養を養う「教養科目群（第一分野～第四分野）」、全学科共通の「共通専門科目群」、生きた語学力を育成する「外国語科目群」、スポーツ実習や健康と運動の科

学理論を学ぶ「保健・体育科目群」の4領域に分けられています。総合科目の中には、指定された学年次に履修しなければならない科目もありますが、多くは1年次から4年次までのいずれの学年次でも履修が可能です。農学に関する専門科目と、その土台となる幅広い領域の総合科目とが有機的に融合するところに、本学部の特長があります。

[総合科目 科目一覧]

教養科目群	第一分野			第二分野	第三分野	第四分野
	人文科学系			社会科学系	自然科学系	ICT系
	宗教の哲学	ことばと文化A	西洋の歴史	経済学	生物学基礎	ICT ベーシック
	科学の哲学	ことばと文化B	アジアの歴史	社会学	物理学基礎	ICT 統計解析入門
	現代論理学の諸問題	日本語表現A	Global Competence A	民俗学	化学基礎	ICT 統計解析応用
	論理的思考の技法	日本語表現B	Global Competence B	法学	数学基礎	ICT データベース入門
	心理学A	文芸思潮	Global Competence C	日本国憲法		ICT データベース応用
	心理学B	地域文化研究				ICT データベース応用
	日本文学	日本の歴史A				ICT 画像編集入門
	外国文学	日本の歴史B				ICT 画像編集応用
						ICT 動画編集入門
						ICT 動画編集応用
共通専門科目群	生物生産学初歩概説			農場実習	国際農業文化理解(パリ)	
	農芸化学初歩概説			アグリサイエンス論	フィールド先端農学	
	生命化学初歩概説			国際農業文化理解(タイ)		
	農業経済初歩概説					
外国語科目群	第一外国語			第二外国語		その他の外国語
	英語Ⅰa・b	日本語Ⅰa・b		ドイツ語Ⅰa・b	スペイン語Ⅰa・b	資格英語
	英語Ⅱa・b	日本語Ⅱa・b		ドイツ語Ⅱa・b	スペイン語Ⅱa・b	資格ドイツ語
	英語Ⅲ	日本語Ⅲ		ドイツ語Ⅲ	スペイン語Ⅲ	資格フランス語
	科学英語			フランス語Ⅰa・b	中国語Ⅰa・b	中国語
	英語コミュニケーション			フランス語Ⅱa・b	中国語Ⅱa・b	ロシア語
				フランス語Ⅲ	中国語Ⅲ	スペイン語
保健・体育科目群	講義科目			実習科目		
	運動学	健康科学		スポーツ実習Ⅰ	スポーツ実習Ⅱ	スポーツ実習Ⅲ
総合科目セミナー (サブ・セミナー)	ゼミナール	ゼミナール論文				

詳しくはホームページへ。

https://www.meiji.ac.jp/agri/department/general_subject/cr_sogo.html



授業紹介

Global Competence A、B、C

担当
教員

Global Competence
長谷川 安代 特任講師

グローバル化する社会に柔軟に対応する力をつけよう

農学部では、1・2年次を対象とした授業科目「Global Competence」を開講しています。グローバル化が進む今日、私たちの暮らしを取り巻く環境は、地球規模で捉える必要があります。そして、直面する様々な課題の解決のためには、国籍を問わず、他者との協働が不可欠です。本授業科目では、地球規模の課題や異文化間コミュニケーションに関する知識を得ると同時に、授業内でのディスカッションやアクティビティへの参加を通じて、分析的・批判的に物事を考えるスキル、多様性を尊重する態度やコミュニケーション能力、さらには行動力を培うことを目指します。3科目(A、B、C)からなり、各科目での学びが有機的につながるよう構成されていますが、1科目のみを履修することも可能です。まずは、教室内の価値観の多様性に目

を向けること、教室内で自らの考えを発信することから始めてみましょう。教室外の世界の見え方も変わってきます。



授業紹介

スポーツ実習Ⅲ

担当
教員

保健体育第Ⅱ研究室
加納 明彦 准教授

生涯スポーツとしての「スキー」を学ぼう

スポーツ実習Ⅲは、2月上旬に長野県菅平高原で行われる3泊4日のスキー実習です。学科や学年の区別なく、誰もが履修できる授業になっています。ゲレンデでの実習は、効率よくスキーを習得するため、技術レベルに応じた班別講習を行っています。初心者



スキーを安全に楽しむ技術を獲得しながら、冬の大自然を体験することで生涯スポーツとしての基礎を学びます。中・上級者は更なる技術の向上を目指し、スキーを生涯スポーツとして活用できる能力を養います。

「スキーが上手になった！」という喜びを実感することや、寝食をともにする共同生活の経験が、今後の皆さんの人生をより豊かにしてくれるものと思います。



TOPICS

農学部語学教育の特色



英語第Ⅲ研究室
下永 裕基 准教授

大学ならではの外国語学習を！

農学部では学生たちが英語で書かれた論文を読んだり、英語で研究成果を発表したり、積極的に海外留学にチャレンジしたりしています。

外国語を使いこなすうえで必要なのは「言語」・「知識」・「文化」です。文法や語彙など「言語」だけで言葉が使えるわけではありません。具体的にその言語を使って自分が何をしたいか、具体的なイメージを持ち、それに必要な「知識」を身につけることが必要です。さらに「文化」も重要です。外国語を学んでいると、日本語とまったく異なる表現や発想に出会いますが、それらを生み出すの

は背景にある文化です。

農学部の外国語教育は、言語をただ学ぶのではなく、様々なトピックについての知識を併せて学んで表現力を豊かにし、言語の背景にある文化まで視野に入れてバランスよく学ぶことを重視しています。

また農学部では、第二外国語も学びます(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語より選択)。学ぶ言語の種類を増やすことは、世界を複眼的に見つめ、世界の多様なものの考え方に触れることでもあります。大学生らしい語学学習を通して教養を深め、視野を広げていきましょう。

〔 総合科目の教育・研究スタッフ 〕

アグリサイエンス研究室

圃場から日本と世界の農業の未来を考える

岩崎 泰永 教授／博士（農学）

実際に作物を栽培する実験・研究を通して、作物の姿を科学の視点で捉え、日本および世界の農業の課題を理解し、生産性の向上、環境負荷軽減、おいしく健康によい作物や野菜の生産などにつながる方法を考えます。

日本語研究室

読書文化と日本の近代

松下 浩幸 教授

夏目漱石や樋口一葉などの日本文学や、社会における読書の意味など、活字メディアが生み出した近代の文化現象について研究しています。

英語第Ⅱ研究室

言語や文学の研究から人間の営みを探る

狩野 晃一 准教授／博士（英米文学）

現代の日本から遠く離れているように思える中世ヨーロッパ。いかに異なり、どのような共通点を持つのか。言語変化や文学伝統の研究を通じて人間とは何かを探ります。

ドイツ語研究室

日独文化交流史の再検討

辻 朋季 准教授／博士（文学）

ポストコロニアル主義の理論や研究成果を取り入れて、この観点から文化交流史（特に日独文化交流史）の再検討を目指しています。

フィールド先端農学研究室

最先端の植物工場技術を習得しよう

伊藤 善一 専任講師／博士（農学）

植物の栽培・管理技術を中心に置いた施設園芸および、植物工場における園芸作物の高品質・高収量生産技術について研究しています。

英語第Ⅳ研究室

英語史研究ならびに人間精神と言語の関連をさぐる

織田 哲司 教授／博士（文学）

人間の脳という有限と無限の交点から生まれる言語に目を向けて、人間とはどういう生き物なのかについての洞察を深めてください。

哲学研究室

西洋近世の形而上学・倫理学

長田 蔵人 准教授／博士（文学）

近代科学の誕生と発展は、人々の世界観・価値観にどのような変化をもたらしたのでしょうか。私たちの科学的世界の基礎を研究しています。

英語第Ⅲ研究室

言葉を通して人間を学ぶ

下永 裕基 准教授

中世初期の「古英語」の研究室です。古い文献は宝箱。読めば昔の人の歩みを追体験でき、さらに語源や文法の謎も解けていきます。

英語第Ⅰ研究室

風景を通して見る自然と言語

樋渡 さゆり 准教授

自然観や言語観、美意識が大きく転換した産業革命から進化論の時代にスポットをあて、現代の私たちの文化や生活を考えます。

Global Competence 担当

グローバル社会を「自由」に生きる

長谷川 安代 特任講師／博士（農学）

これからの時代を「自由」に生きるためには、どのような力が必要なのか。どのようにしてその力を培うことができるか。ともに考え、実践していきましょう。

保健体育第Ⅰ研究室

パフォーマンスを考える

多賀 恒雄 教授

高い競技力を有する人もいればそうでない人もいます。何故でしょう？その要因を運動能力的観点から検討しています。

保健体育第Ⅱ研究室

スポーツ・バイオメカニクス

加納 明彦 准教授

スポーツ選手の動作について高速度カメラによる三次元解析や地面反力の分析を行い、熟練動作のメカニズムを検討しています。

フランス語研究室

時には違う眼鏡で世界を見てみよう！

高瀬 智子 准教授

言語を学ぶこと、それは、その言語の色をした眼鏡をかけてみることに似ています。さあ、フランス語色の眼鏡からはどんな世界が見えて来るでしょう？

英語農学研究室

農業環境科学や政策を英語で学ぶ

McTaggart, Iain 准教授／Ph.D.

地球温暖化や気候変動について英語で情報を集め、食料生産・健康・環境等に与える影響や適応政策について研究し、英語で発表します。

※ 研究室は退職等により変更となる場合があります。

施設ガイド：生田キャンパス

生田キャンパス 主な研究施設・設備

1 中央校舎
2 センターフォレスト
3 第一校舎1号館
4 第一校舎2号館
5 第一校舎3号館
6 第一校舎4号館
7 第一校舎5号館
8 第一校舎6号館
9 ハイテク・リサーチ・センター
10 温室
11 北園場・南園場
12 植村直己記念碑
13 食堂館
14 スクエア21
15 植物工場基盤
16 東グラウンド
17 25号棟

生田
キャンパス
マップ

1 中央校舎

2 センターフォレスト

3 4 5 1～6号館
6 7 8

9 ハイテク・リサーチ・センター

10 温室

11 北園場・南園場

12 植村直己記念碑

13 食堂館
スクエア21

生田キャンパスの中心に立つ中央校舎には、農学部事務室を含む各事務室、診療所、学生相談室、教室、情報処理教室、メディアホールなどがあります。

教室機能、図書館機能およびラーニングコモンズ（総合的な自主学習のための環境）機能の3つを複合した校舎です。現代の社会的ニーズに対応したアクティブラーニングの設備はもとより、生田キャンパスのハブとなる共用教育棟であり、2025年4月から利用を開始しています。

1～6号館には、教室、ゼミ室、学生実験室や各教員の研究室があります。授業や研究は、基本的にこれらの建物と中央校舎を使用して行われます。
A B C D E F G H I J K L 詳細は [▶P.41-42](#) へ

農学部と理工学部が合同で利用する施設。内部には、数千万円クラスの研究装置から、中には1億円を超える最先端機器も設置されています。
M N O P 詳細は [▶P.42](#) へ

植物生育環境を変更・制御することで農作物の成長反応などを研究する設備として、生田キャンパスには数棟の温室が設置されています。それぞれの研究室の特色に応じた農作物の栽培研究を行っています。

土壌分析の研究や作物栽培の研究などを行っている複数の研究室が、実際に生産や収穫、調査を行うための実験園場です。

1964年に農学部を卒業し、1984年2月12日、世界初のマッキンレー冬期単独登頂に成功し、帰らぬ人となった世界的冒険家“植村直己”の記念碑。農学部創立記念庭園の中央にそびえ立ち、学生たちの憩いの場となっています。

3階建ての学食で、コンセプトの異なる2つの食堂が入っています。ボリュームたっぷりの定食、どんぶり、ラーメン、和麺からヘルシーなローカロリーメニューまで、バラエティに富んだ品揃えで提供しています。また、1階はラウンジとなっています。

教員からのメッセージ



レンガを横に置く！

日本語研究室
松下 浩幸 教授

「レンガを高く積むためには、すそ野を広くしなければならぬ。」元サッカー日本代表の監督を務めた岡田武史氏の言葉です。岡田氏は日本代表が世界で思うような結果を残せなかった時期

に、このような言葉を残しています。一見、成果が出ていないように見えるけれど、レンガを横に積む経験は将来に必ず生きる。すそ野を広くすることが、レンガを高く積むためには必要なのだと言っています。このことを大学の教育に当てはめると、専門を学ぶことはレンガを高く積む作業に、そして教養を学ぶことはレンガを横に置く作業だと言えるでしょう。一見、専門と関係のないように見える学問の英知が、実はそれぞれの専門領域を高い水準に押し上げてくれるということです。レンガを高く積むだけでは、レンガの塔はすぐに倒れてしまいます。高くそびえる富士のすそ野が広々としているように、レンガを横に置くことが、それぞれの専門分野の水準を高めてくれます。教養を学ぶ意味、それはレンガを横に置くことに似ています。

充実した研究施設&設備

バイオサイエンスをはじめとする科学・技術の発展は、近年目覚ましいものがあります。これらの技術を利用して、生物の仕組みを解明するための様々な機器類が開発されてきました。それに伴って機器類が身近にあるか否かで研究手法が限られてしまうこともあります。農学部では、最先端の研究に要求される高度な

研究機器類を整備し、研究体制の充実を図っています。これらの研究機器類を利用して、生物の生きていく仕組みについての研究を進めると、そこには無限の不思議と、無限の可能性があることに気づくでしょう。そこから得られた情報を私たちの生活にどこまで還元することができるのか、研究の進展が期待されます。

1～6号館

A セルソーター



非常に高速で連続的に移動する小さい液滴の中に閉じ込められた1つ1つの細胞にレーザー光を当て、生じた屈折光や蛍光から特定の細胞の分布を調べたり、分取したりする装置。ある細胞集団の中から特定の細胞を生きたまま1つずつ分離・回収することも可能です。

B 高速次世代シーケンサー



初期のゲノムプロジェクトでは何年もかかったヒトゲノムの30億塩基対を1～2日程度で決定できる能力を持ったシーケンサーです。農学部特有の配列未知の動植物や微生物のゲノム解析からエビジェネティクスなどのポストゲノム解析までを行うことが可能です。

C セクショニング蛍光顕微鏡



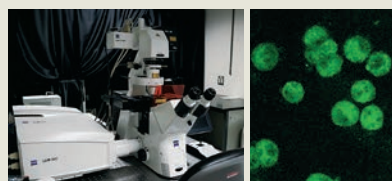
微生物や、動物細胞の内部でおきている変化を「生きたまま」「リアルタイム」で観察することができます。細胞内の特定のタンパク質を赤や緑の蛍光で検出し、それらの画像を解析することで細胞の変化を研究しています。

D 誘導結合プラズマ質量分析計(ICP-MS)



高温のプラズマと磁場の中に液化試料を導入し、わずかな質量差を捉えて土壌、動植物など、物質を構成している多元素の微量分析ができます。

E 共焦点レーザー顕微鏡



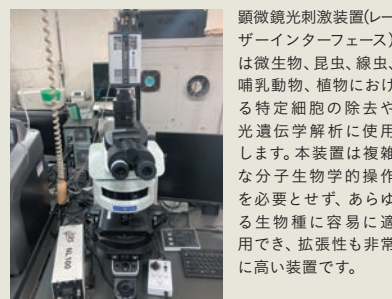
特定のタンパク質が細胞内のどこで働くか、時間経過に伴ってどのような動きをするか、あるいは他のタンパク質との相互作用などを、組織や細胞が生きた状態で高感度・高精度に観察することができる装置です。

F Droplet Digital PCR



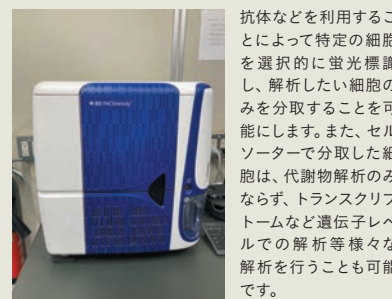
1細胞という非常に小さなスケールでの分子の検出・定量を可能にします。リアルタイムPCRなどの従来機器では検出できなかった微量の核酸を定量性良く解析できます。また、ウイルス等の病原体の検出、環境中に残存する微量DNAの検出などにも応用可能です。

G 顕微鏡レーザーインターフェースシステム



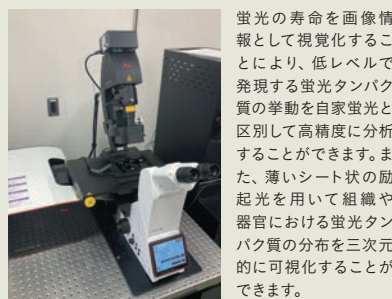
顕微鏡光刺激装置(レーザーインターフェース)は微生物、昆虫、線虫、哺乳動物、植物における特定細胞の除去や光遺伝学解析に使用します。本装置は複雑な分子生物学的操作を必要とせず、あらゆる生物種に容易に適用でき、拡張性も非常に高い装置です。

H BD FACSMelody セルソーター



抗体などを利用することによって特定の細胞を選択的に蛍光標識し、解析したい細胞のみを分取することを可能にします。また、セルソーターで分取した細胞は、代謝物解析のみならず、転写スクリーンなど遺伝子レベルでの解析等様々な解析を行うことも可能です。

I 共焦点・ライトシート顕微鏡(STELLARIS 8)



蛍光の寿命を画像情報として視覚化することにより、低レベルで発現する蛍光タンパク質の挙動を自家蛍光と区別して高精度に分析することができます。また、薄いシート状の励起光を用いて組織や器官における蛍光タンパク質の分布を三次元的に可視化することができます。

J 窒素安定同位体比分析計



亜酸化窒素(N₂O)、メタン(CH₄)、二酸化炭素(CO₂)ガス濃度とそれぞれのガスに含まれる微量な窒素・炭素安定同位体比を連続的に測定できます。時々刻々と変化する環境因子(地温、土壌水分量など)に呼応して変化する微生物活性によって温室効果ガス放出・吸収が変化するため、連続的なデータを得ることでこれまで見逃してきた多くの新たな現象を捉えられます。

K 水利実験場



維持管理が容易で、環境に配慮した水路や取入堰などの水利施設の開発や改良をするために模型を製作して実験を行っています。写真は、農業用水路を使った小水力発電のための水車の実験をしているところです。

L 植物培養室



光や温度を人工的に調節できる培養室です。遺伝子導入した細胞からの植物個体の再生や、低温・乾燥などの環境条件に対する植物の応答や遺伝子機能の解析に利用しています。

TOPICS

農商工連携研究のモデルケース

飲食店などへ安定的に野菜を供給できるのはなぜ？ その仕組みを探ろう

「明治大学植物工場基盤技術研究センター」での研究には2つの特長があります。1つ目は「完全人工光型」すなわちランプを使った植物栽培の研究を行うことです。空きオフィスなどを活用して野菜を供給する都市型農業の形態の一つとして、植物工場は大きな可能性を秘めています。

2つ目は、本学が総合大学であることを活かし、学部の枠を越えて商、経営、理工、農学部などが協力体制を組み、農商工連携研究のモデルケースとして運用していくというもの。植物工場ほど、それらが一体とならなければ成り立たない産業はありません。



ハイク・リサーチ・センター

M 液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS/MS)



複合試料が高速で分離できる装置に最先端の質量分析計を結合させた機器。ペプチドなど低分子化合物の質量を素早く高感度で分析できます。

N ガスクロマトグラフ/質量分析装置(GC/MS)



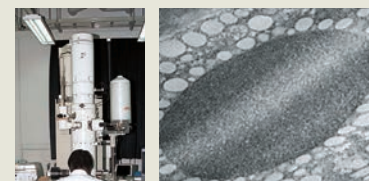
ガスクロマトグラフ(GC)と質量分析装置(MS)を結合した複合装置です。GCで分離した単一成分についてMSスペクトルを測定することにより成分の定性を行い、MSにより検出されたイオンの強度により定量を行います。有機化合物(特に低分子量成分)の定性・定量を目的とした分析に活用しています。

O 走査型電子顕微鏡(SEM)



物質の表面構造を観察するときに用いられる電子顕微鏡。微生物の丸ごとの形態や動植物の組織構造などの観察に利用されています。

P 透過型電子顕微鏡(TEM)



小・中学校でよく使われる光学顕微鏡より、10万倍以上小さな物が見える顕微鏡。ナノスケールのウイルスやタンパク質1分子を観察できます。

その他

Q バイオテクノロジー実験設備棟



植物・微生物等の遺伝子組換え実験を行うためのクリーンルーム。外気からのホコリの侵入を防ぐエア・カーテン設備、および組換え植物の花粉等が外に拡散しないための設備を有しています。

R ライシメータ

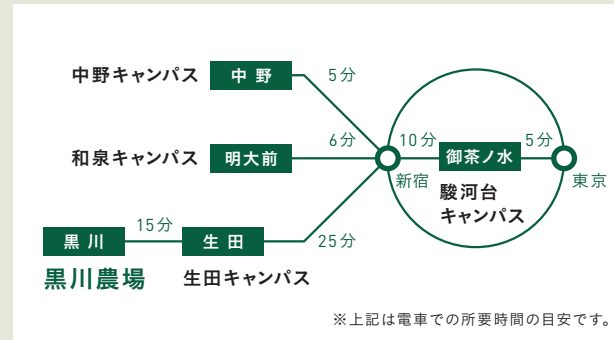


作物を実際に栽培しながら、降雨量、灌水量、および排水量を観測し、作物の蒸発散量(要水量)を経時的にとらえるための施設です。地下水を調節することも可能であり、作物生産において重要な水収支との関係を定量的に解析しています。

明治大学黒川農場 Meiji University Kurokawa Field Science Center

自然と共存する、最先端農場で学ぼう

環境・自然・地域との共生をコンセプトに2012年、神奈川県川崎市麻生区に開設されたのが黒川農場です。生田キャンパスからも近く、これまで難しかった年間を通じた持続的な実習も可能となりました。当農場はもともとの自然を最大限に活かした設計がされており、先端技術を駆使した生産効率の高い栽培システムと環境保全型システムを併せ持ちます。また、地域と大学の連携による多目的な都市型農場を目指しているのも黒川農場の特長です。



農学部所属する9割以上の学生が、黒川農場での「農場実習」を履修しています。



苗の植えつけから育ててきたサツマイモを収穫しています。



HACCPに基づいた衛生管理下で加工食品を作ります。

黒川農場 マップ

人工光・閉鎖型苗生産システム



密閉された空間で、温度管理・光照射・灌水などすべてを自動で行うシステムを備えた施設。季節や天候に左右されことなく、苗を無菌的に短期間で育て、連続的に供給可能です。

本館2階 実験・実習室



農場実習で使うほか、農場の研究室所属のゼミ学生が実験をするところです。

本館



鉄筋コンクリートと木造のハイブリッド構造で建設されたシンボリック施設であり、教室、実験室、研究室、教員室、事務室などを有した教職員と学生の教育・研究の拠点となる建物です。

本館2階 学生ラウンジ



学生が実験実習の合間の休憩や、ディスカッション等に利用できるスペースです。木質構造で温かみがあり、くつろげる空間に設計されています。

ハウス



養液栽培でトマト、イチゴ、葉菜類などを栽培しています。養液土耕や養液栽培、環境制御やスマート農業技術の実験、研究を実施。



里山



黒川農場の周縁は里山になっており、植物、哺乳類、鳥類などの自然と黒川の文化を、里山を通して総合的に学ぶフィールドとして使用されます。

圃場



これらの圃場は学生が実習で使用するほか、社会人向け講座や生産販売用に使われています。一般的な栽培のほかには有機栽培も行われており、様々な栽培方法で作物を生産しています。

加工実習棟



漬物、ジャムなど、学生の食品加工実習に利用されている施設。明治大学ブランドの加工食品の生産を目指しています。

農場実習の担当スタッフ

都市農業における 野菜栽培技術開発

川岸 康司 特任教授／博士（農学）
都市農業の特徴を把握するとともに、都市農業における、野菜の生理・生態や品目・品種の特性を活かした栽培技術の確立を目指しています。



食品加工分析と 発酵微生物の研究

徳田 安伸 特任教授
様々な食品の加工と分析を行います。さらにワイン酵母やテンペ菌など発酵にかかわる微生物についての研究開発をしています。



現場で使える技術・情報を考える

鎌田 淳 特任准教授／博士（農芸化学）
生産現場で発生する様々な問題を解決するために、技術開発と基礎研究を結びつけた研究を行っています。



未利用有機性廃棄物の 利用技術開発に関する研究

武田 甲 特任准教授／修士（農学）
環境保全型農業の確立と資源循環型社会の構築に役立つことを目的として、未利用の有機性廃棄物を肥料化し栽培に活用する研究を行います。さらに有機性廃棄物の新しい利点を見出し、利用を促進することを目指す研究を行います。



都市部での野菜栽培を活用した 新たな価値の創造

齋藤 義弘 客員教授

都市部で、主に野菜の種まきから収穫までの一連の管理技術を普及させることにより、新たな価値の創造に寄与できることを目指します。



農場長からのメッセージ

先進的な栽培システムと 環境保全型システムを併せ持つ 都市型農場

元木 悟 教授

黒川農場は、環境・自然・地域との共生をコンセプトとした都市型農場であり、都心からほど近い大学付属農場として、都市近郊の農業と里山を学ぶには恵まれた環境です。主に農場実習を行う一般野菜栽培と有機栽培の2つの露地圃場のほか、先進的な施設園芸が実践できるハウス群、人工光・閉鎖型苗生産システム、加工実習棟、里山などを有し、体験と実践を基本に、分析と研究を行いながら学びを深めることができます。農場実習では、農学部4学科の学生が種まきから収穫までの一連の農作業を実践的に学ぶことができ、学座で得た知識を広げるのに役立ちます。

国際交流（留学制度）

2つの留学制度と短期海外研修

明治大学の留学制度には、明治大学と留学の協定を結んでいる高等教育機関等へ学内選抜を経て派遣される「協定留学」と、自分で留学希望高等教育機関等に出願手続きをして、明治大学の許可を受けて留学する「認定留学」の2種類があります。

[留学の条件]

	協定留学（学部間・大学間）		認定留学	
資格	学部生	出発時2年生以上（出願時1年生以上）	学部生	出発時1年生以上
	大学院生	指導教員の許可等	大学院生	指導教員の許可等
人数	各大学につき毎年度1～2名（相手校により異なる）		制限なし	
費用	・ 留学先機関の授業料免除有無は、留学先機関との協定により異なる（本学の学費は納付）。 ・ 渡航費や滞在費などは自己負担。		・ すべて自己負担。 ・ 本学と留学先大学の両方の学費を納付。	
助成	学内選考のうえ留学経費を助成する制度あり。		学内選考のうえ留学先大学授業料の一部ならびに留学経費を助成する制度あり。	
外国語能力	・ 英語圏：少なくともTOEFL-iBT®61点以上が必要。 大学によっては、さらに高いスコアが必要である。 ・ その他の言語は協定校の定める基準に従う。		留学先の高等教育機関等によって異なる。	

※詳細に関しては国際教育センター発行「海外留学の手引き」や、農学部HPを参照してください。

[農学部・留学可能な協定校] 2025年4月現在

カセサート大学
カンペンセン校農学部・バンケーン校農学部
(タイ王国・カンペンセン)



国立屏東科技大学
農学部、工学部
(台湾・屏東県)



シーナカリンウィロート大学
農産物革新・技術学部、経済学部
(タイ王国・バンコク)



チュラロンコン大学
理学部
(タイ王国・バンコク)



テキサス大学サウスウェスタン
メディカルセンター
(米国・テキサス)



ミシガン州立大学
(米国・イーストランシング)



農学部の長期留学制度
(学部間協定留学)

「大学間」の協定に基づく留学制度には全学部から応募できますが、農学部には農学部の学生しか応募できない独自の「学部間」協定校があります。「学部間」協定校は、農学系の学部学科を有する大学なので、語学力の向上だけでなく、日頃勉強している専門分野の学びを深めることも期待できます。以下、学部間協定校に指定されている6つの主な大学を紹介します。

カセサート大学 カンペンセン校農学部・
バンケーン校農学部(タイ王国 カンペンセン)

カセサート大学は1943年に創立され、タイ国の中でもトップスクールの一つにランクされています。カセサート大学は、タイの農学分野で先導的な役割を担ってきました。留学生にも開かれた大学であり、キャンパス内には留学生寮が完備されているので、安全かつ安価な滞在が可能です。留学生の割合は全学生の1～2%となっています。

シーナカリンウィロート大学 農産物革新・
技術学部、経済学部(タイ王国 バンコク)

シーナカリンウィロート大学は1949年に創立された国立大学です。現在は医学部や薬学部も設置されて総合大学となっています。明治大学とは非常に深いつながりがあり、積極的に相互に学生の派遣や受け入れを行っています。経済学部など文系学部の科目やタイ語の授業についてはブラサンミットキャンパスをメインとし、農産物革新・技術学部を含む自然科学系の理系学部はナコンナーヨック県にあるオンカラックキャンパスをメインとして利用することになります。

チュラロンコン大学 理学部
(タイ王国 バンコク)

チュラロンコン大学は18の学部により構成され、学士、修士、博士、ポストドクトラルを含むすべての学位を提供するタイにおける代表的な研究・教育機関であり、タイの最高峰の大学として位置づけられてきました。チュラロンコン大学理学部は、生物、化学、植物、微生物、生化学、食品科学、環境科学等の学科を有しており、農学部の教育研究分野と共通するものも多い学部です。キャンパスは首都バンコク市街に位置し、電車の最寄り駅が2つあり、無料バスで学内への移動が可能です。非常に利便性の高い大学です。

農学部の短期留学制度
(国際農業文化理解プログラム)

農学部には、タイ、バリの2つの短期留学プログラムがあります。両プログラムは、授業科目（国際農業文化理解）として履修し、単位を修得することができます。

URL: <https://www.meiji.ac.jp/agri/international/program.html>
(詳細はこちらからご確認ください)



INTERVIEW

留学体験記

プログラム名: 学部間協定留学
留学先: チュラロンコン大学

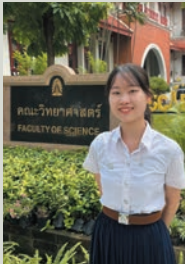
多様な文化に触れ、視野が広がる

留学はこれまでの考えや価値観を大きく変えることができる貴重な機会だと感じています。このプログラムでは、約1年の間、異国の地で異なる文化や多様な考え方に触れることができました。特に印象的だったのは、留学先の大学で開催されたイベントに、運営スタッフ

としてかかわったことです。イベントのコンセプトから構成まで、ミーティングを通じてアイデアを交換し、開催に向けて準備を進めました。留学先で身につけた多角的な視点や行動力は、新しい環境や、挑戦に臨む際に活かされていると感じます。

生命科学科4年 高橋 唯 東京都私立共立女子高等学校卒業

さらに、明治大学の学部間協定留学では、授業料の免除などのサポートを受けることもできます。この恵まれた環境を活かして海外留学にチャレンジし、あなたのこれまでの世界を広げてください。



大学院 農学研究科

研究室のドアを開ければ

農学は自然を学び、自然から学び取り、さらに人と自然を結ぶ学問・研究分野です。大学院では特定のテーマを専門的な知識と手法で深掘りし、課題の解決を目指しますが、視野を広げて考える、視点を変えて見ると、テーマの意味や意義が違って明確になり、広がりと深化がもたらされます。明治大学大学院農学研究科は、自然科学から社会科学に至る幅広い専攻と

優れた教員スタッフを擁し、研究室のドアを開けると分野の異なる学生や教員といつでも出会うことができます。さらに、皆さんの活動を後押しする支援システムやプログラムを用意しています。この持ち味を存分に引き出し、好奇心を大切に自由な発想を育て、自分だからこそできる新たなチャレンジを期待しています。



「食料・環境・生命」の問題の本質についての深い洞察力と豊かな人間性を育み、高度な専門知識を備え、広い視野から問題解決への道を探究します。



▶ 農芸化学専攻

最先端技術を駆使して、様々な問題に挑む

本専攻では、「食料・環境・生命」の分野における諸課題に、物理学・化学・生物学・分子生物学・工学の立場から取り組んでいます。先端技術を駆使して、私たちが安全で快適な生活を送るために必要な食料・栄養や地球環境の問題の克服を目指します。

研究分野としては、動植物・微生物の栄養と代謝、有用生物の選抜と育成、生理活性物質の探索と生合成、生物を利用した土壌改良・環境浄化など、生物生産や資源生物に関する分野が中心となりますが、ほかに生産物を対象とする研究分野としては、新規食品素材や食品機能の開発などがあります。以上の教育・研究を通して、バイオサイエンス研究に必要な化学的・分子生物学的な知識を有し、幅広く農芸化学分野で社会貢献できる人材を養成します。

〔教育・研究スタッフ〕

教授	荒谷 博
	石丸 喜朗
	長田 恭一
	久城 哲夫
	島田 友裕
	竹中 麻子
	中島 春紫
	中村 卓
	前田 理久
	村上 周一郎
准教授	安保 充
	小山内 崇
	加藤 雅彦
	金子 賢太郎
	鈴木 博実
	瀬戸 義哉
	田畑 亮
専任講師	山田 千早

▶ 農学専攻

人間社会の維持・発展に貢献する

本専攻は、生産植物・環境植物・農地・農村・動物が研究対象です。その方法論は、生理学・生態学的方法から動物行動学・微生物学・生物化学・分子生物学・分子遺伝学・環境学・水理学・農村計画学・土壌物理学・疫学・バイオ統計学的手法等です。それは、生物や植物の群落・動物群レベルから、個体・器官・組織・細胞・分子レベルまで含みます。研究目的を解明しようとする課題のキーワードで示せば、作物収集・発育管理・育種素材・鮮度保持・病害虫耐性・土地自然特性活用・緑化・希少種保全手法・免疫機能・代謝調節機構・有用菌遺伝子・動物行動と繁殖・動物福祉等となります。これらの最終目的は、食料の持続的生産・健康と福祉・共生と循環等、人間社会の維持と発展に貢献することです。

〔教育・研究スタッフ〕

教授	池田 敬
	糸山 享
	岩崎 直人
	岩崎 泰永
	倉本 宣
	登尾 浩助
	半田 高
	溝口 康
	元木 悟
准教授	大里 修一
	川口 真以子
	菅野 博貴
	小島 信彦
	佐々木 羊介
	塩津 文隆
	新屋 良治
専任講師	服部 俊宏
	矢崎 友嗣
専任講師	伊藤 善一

▶ 農業経済学専攻

食料・農業・環境を考え、応える

本専攻は、食料・農業・環境にかかわる諸問題を社会科学の立場から解明し、人類の持続可能性の社会・経済条件を考究するという高邁な目的を持っています。これは、困難な時代の本専攻への社会的要請でもあります。そのため、社会科学諸学問の修得を基本として、専門的かつ総合的な観点と、フィールドに根ざしながらグローバルに考える複眼的な視点を持つことができる教育指導を行っています。大学院生自ら研究テーマを選び、充実したスタッフ陣によって、様々なアドバイスを受けることができます。スタッフと院生との距離が近いことも本専攻の特長であり、専用の研究スペースと情報機器を使用することができます。このような環境下で、研究に取り組んだ修了者は、試験研究機関、農業団体、官公庁、一般企業などで活躍しています。

〔教育・研究スタッフ〕

教授	池上 彰英
	市田 知子
	大江 徹男
	小田切 徳美
	作山 巧
	竹本 田持
	橋口 卓也
	藤栄 剛
准教授	岡 通太郎
	片野 洋平
	佐々木 宏樹
	中嶋 晋作
専任講師	本所 靖博
	眺 剛

▶ 生命科学専攻

生命の謎を解明し、人類の未来に貢献する

本専攻では生命科学与バイオテクノロジーの基本的な知識と研究手法を基盤とし、動物、植物、微生物を対象に基礎・応用にわたる研究と教育を行っています。タンパク質の構造と機能の研究、遺伝情報の発現や細胞の増殖・分化に関する研究、動物の生殖や個体発生および疾病発症の分子機構の解明や食糧生産に役立つ分子生物学的研究、生体活動でのホルモンや体内時計の役割や、環境変化・病原体への応答メカニズムや免疫制御機構の解析、微生物の健康・環境への有効利用、クローン動物や遺伝子組換え動物の再生医学研究など、様々な分野の研究が各研究室で展開されています。本専攻の修了者は、食品、化学、医療、ゲノム解析、生物資源と環境の保全など、幅広い分野において活躍することが期待されています。

〔教育・研究スタッフ〕

教授	浅沼 成人
	乾 雅史
	大鐘 潤
	賀来 華江
	川上 直人
	河野 菜摘子
	紀藤 圭治
	戸村 秀明
	長嶋 比呂志
	中村 孝博
	浜本 牧子
	吉田 健一
	吉本 光希
	渡辺 寛人
准教授	高橋 直紀
	田中 博和
専任講師	長竹 貴広

院生生活REPORT

科学技術の力で、人々の暮らしを支える基盤を築く

農芸化学専攻 博士前期課程1年
中村 晟吾
静岡県立藤枝東高等学校卒業



近年、アレルギー性疾患の増加が社会的な問題となっています。特に、食物アレルギーや花粉症は多くの人々に影響を及ぼし、生活の質低下を招いています。そこで私は、寄生虫感染に対する防御応答で重要な役割を果たし、アレルギーへの関与が示唆されている小腸刷子細胞の機能解析に取り組んでいます。研究を通して刷子細胞の機能を解明することで、アレルギー性疾患の予防や治療法の開発に貢献したいと考えています。

院生生活REPORT

食糧・栄養問題に貢献できる研究

農学専攻 博士前期課程2年
阿部 志織
東京都私立明治大学付属八王子高等学校卒業

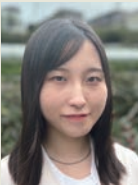


将来の地球人口を支えるためには食糧の増産が求められています。私が所属する作物学研究室では、作物の生産性と品質の向上、気候変動に適応した栽培技術の開発をテーマに研究を行っています。私はハトムギという作物の収量と健康機能性を高める栽培方法の解明に取り組んでいます。研究生活では、屋外での作物栽培や室内での成分分析、国内外での現地調査や学会発表等、幅広い経験を通して作物学への理解を深めることができます。

院生生活REPORT

広く深く学びに没頭できる環境

農業経済学専攻 博士前期課程1年
杉田 華澄
神奈川県私立聖セシリア女子高等学校卒業



今日、消費者の食や農への意識が薄れているように感じられます。この問題の背景には別の社会問題が関係しており、複雑な問題です。こうした複雑で解決が難しい問題でも、農業経済学や社会学、会計学をはじめとする社会科学系の学問を深く学ぶ多角的な思考力を養うことで、解決の糸口が少しずつ見えてきます。少人数制の本専攻ならではの濃密な学びから、視座を高めた未来の食と農を支える人材となれるよう日々研究に励んでいます。

院生生活REPORT

生物を組み上げる緻密な連鎖を解き明かす

生命科学専攻 博士後期課程1年
立原 瞭
茨城県立並木中等教育学校卒業



生物を構成する最小単位と言われる「細胞」も、その内側を覗くとタンパク質を始めとした、更に細かな役者たちの相互作用によって成り立っていることがわかります。私は、精神のストレスという社会を悩ませるテーマに、細胞の持つ情報伝達能力というツールを活用して取り組んでいます。研究室生活は、指導教員の先生すらも未知の結果を求めて挑戦する日々です。自分の中にある知識を組み合わせ活用できるやりがいを感じています。

大学院生への支援制度

本学部では、大学院生を採用する助手制度、RA（リサーチアシスタント）制度、TA（ティーチングアシスタント）制度があり、学内にいながら一定の報酬を得ることができます。また、奨学金や研究支援のための学会研究発表助成なども行っています。

① 助手制度：若手研究者の養成を目的とし、博士後期課程に在籍する大学院生を対象に、専門分野の研究や実験・実習および演習等の教育補助業務のほか、学部の教育的行事業務を行います。

② RA制度：博士後期課程に在籍する大学院生を対象とし、学部内の研究プロジェクトや特定課題研究等において研究補助業務に従事します。

③ TA制度：主に博士前期課程に在籍する大学院生を対象とし、学部学生に対する学習支援や、実験・実習等の授業科目における補助業務に従事します。教育者、研究者になるためのトレーニングの機会となっています。

④ 奨学金制度：修了と同時に返還義務が生じる貸費型と、修了後に返還の必要がない給費型の2つがあります。給費奨学金には、明治大学大学院研究奨励奨学金があり、学業成績・研究業

績が特に優秀な方を対象に授業料2分の1相当額が給費されます。

⑤ 学会研究発表助成：研究成果の発表の場である各種学会発表に対し、その交通費および参加費（ともに上限あり）を年間2回まで助成し、学外への研究の成果発表を支援しています。



TAは、実験・実習授業等に参加して、担当教員をフォローする役目も果たしています。

[2026年度 大学院博士課程 入学試験日程]

	入試形態	対象	要項公開	出願期間	入学試験日	選考方法
博士前期課程	学内選考入学試験	本学部4年生	4月	5月26日～29日	7月5日	面接試験
	I期入学試験	学部4年生・卒業生・留学生	4月	7月22日～25日	9月17日	英語・基礎科目・専門科目・面接試験 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション(面接試験含む)
	II期入学試験	学部4年生・卒業生・留学生	4月	12月1日～4日	2月2日	英語・基礎科目・専門科目・面接試験 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション(面接試験含む)
	社会人入学試験	社会人・社会人経験者	4月 4月	7月22日～25日 12月1日～4日	9月17日 2月2日	書類審査・小論文・面接試験

	入試形態	対象	要項公開	出願期間	入学試験日	選考方法
博士後期課程	学内選考入学試験	本研究科博士前期課程2年生	4月	5月26日～29日	7月5日	面接試験
	I期入学試験	博士前期2年生・修了生・留学生	4月	7月22日～25日	9月17日	英語・面接試験 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション(面接試験含む)
	II期入学試験	博士前期2年生・修了生・留学生	4月	12月1日～4日	2月2日	英語・面接試験 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション(面接試験含む)
	社会人入学試験	社会人・社会人経験者	4月 4月	7月22日～25日 12月1日～4日	9月17日 2月2日	書類審査・小論文・面接試験

[2023年度 農学研究科修了生の主な就職先]

・(株)D4cプレミアム	・(株)世田谷自然食品	・イー・ガーディアン(株)	・ニチアス(株)	・大成建設(株)
・(株)サカタのタネ	・(株)電通総研	・エイツーヘルスケア(株)	・パシフィックコンサルタンツ(株)	・第一三共ヘルスケア(株)
・全国農業(協組連)本所	・(株)日産アーク	・エレコム(株)	・ほけんの窓口グループ(株)	・日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)
・(一財)材料科学技術振興財団	・(株)日清製粉ウェルナ	・オリエンタル酵母工業(株)	・ミヨシ油脂(株)	・日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)
・(株)CLIS	・(株)羊土社	・カルビー(株)	・ライオン(株)	・日本ハム(株)
・(株)C-plus	・(公財)日本産業廃棄物処理振興センター	・キオクシア(株)	・ランドブレイン(株)	・日本食研ホールディングス
・(株)LSIメディアエンス	・(国)東海国立大学機構 名古屋大学	・キタイ設計(株)	・レック・テクノロジー・コンサルティング(株)	・日本電子(株)
・(株)NTTデータ・ビジネスインテグラル	・AGC(株)	・クリタ明希(株)	・伊藤忠食糧(株)	・日本電信電話(株)
・(株)オオスミ	・EPSホールディングス(株)	・コスモエネルギーホールディングス(株)	・国家公務員(一般職)	・日本農産工業(株)
・(株)セラク	・H.U.グループホールディングス(株)	・サナテックシード(株)	・国家公務員(総合職)	・日本農業(株)
・(株)ツムラ	・NECソリューションイノベータ(株)	・サントリーホールディングス	・(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構	・農中情報システム(株)
・(株)ナード研究所	・NTTデータルウィーブ(株)	・スカイマーク(株)	・阪和興業(株)	・富士フイルムビジネスソリューションジャパン(株)
・(株)ニチレイフーズ	・SCSK(株)	・スタンレー電気(株)	・神奈川県庁	・野村不動産(株)
・(株)ハビネット	・TOPPAN(株)	・セントラルトリニティ(株)	・生化学工業(株)	
・(株)ファンケル	・WDB(株)エウレカ社	・チチヤス(株)	・雪印メグミルク(株)	
・(株)マクロミル	・アズワン(株)	・デロイトトーマツコンサルティング合同会社	・全農グリーンリソース(株)	

奨学金と学習支援

充実した明治大学の奨学金制度

学生生活を維持・充実させるためには、経済的負担が伴います。負担を軽減するために学生自身がアルバイトに力を入れると、時として学業に支障をきたすなどの影響が出てきます。そこで、明治大学では修学に必要な経費を補うために、多くの奨学金制度を設けていま

す。奨学金は返済の必要のない給費型と、卒業後に返済の義務が生じる貸費型(無利子・有利子)の2つに分けられます。奨学金には様々な種類があります。明治大学独自の奨学金や日本学生支援機構奨学金、国の修学支援制度や民間団体・地方公共団体などが行う奨学金があり、応募資格や条件として、学業成績、人物、家計状況などの選考基準がそれぞれ定められています。多くの奨学金は4月上旬に募集を行うので、入学後に明治大学ホームページ掲載の奨学金情報誌『ASSIST』で詳細を確認してください。

[農学部で利用できる主な奨学金(2025年度予定)]

奨学団体	タイプ※1	申込制※2	奨学金名称	支給額等
明治大学	○	●	明治大学入学前予約型奨学金「おゝ明治奨学金」	授業料2分の1相当額：経済支援を必要とする受験生が対象(入学前の10月～11月に申請)
	○	●	明治大学給費奨学金	300,000円、400,000円：経済支援を必要とする学生に給付
	○	●	明治大学創立者記念課外活動奨励金	30,000円～500,000円：様々な分野で活躍している人、チャレンジしている人に給付
	○	●	明治大学創立者記念経済支援奨学金	240,000円～360,000円：経済困難の両親とにもいない自活者や身体に障がいをもつ学生に給付
	○		明治大学学業奨励給費奨学金	授業料2分の1相当額：1～4年生が対象で入学後の学業成績優秀者に給付
	○	●	明治大学校友会奨学金「前へ！」	200,000円：明治大学校友会からの寄付金を原資として、地域性および経済状況を重視したうえで選考し、給付
	○	●	明治大学スポーツ奨励奨学金	授業料相当額または授業料2分の1相当額を上限として給付：体育会運動部に所属し、スポーツ活動成績優秀者に給付
	○	●	明治大学連合父母会一般給付奨学金	250,000円：連合父母会からの寄付金を原資として、経済支援を必要とする学生に給付
	○	●	明治大学連合父母会特別給付奨学金	700,000円：家計支持者の死亡により給付
日本学生支援機構	○	●	明大サポート奨学金	300,000円：家計急変者・困窮者に給付
	△	●	第一種奨学金	20,000円、30,000円、40,000円、54,000円／月：自宅通学生、20,000円、30,000円、40,000円、50,000円、64,000円／月：自宅外通学生
国の修学支援制度	▲	●	第二種奨学金	20,000円～120,000円／月：額は左記範囲内10,000円刻みで選択
	○	●	授業料等減免	入学金200,000円、授業料700,000円 給付額は、上限の額です。収入額により、給付額は異なります
その他	○	●	給付型奨学金	自宅生 月額38,300円(年額459,600円)、自宅外生 月額75,800円(年額909,600円) 給付額は、上限の額です。収入額等により、給付額は異なります
	○△	●	民間団体奨学金	15,000円～80,000円／月：額は奨学団体による
その他	△	●	地方公共団体奨学金	25,000円～52,000円／月：額は奨学団体による

※1 ○：給付型、△：無利子貸与型、▲：有利子貸与型 ※2 ●：申請が必要な奨学金

大学院生が学生をサポートする「ラーニングサポートスペース」

農学部では、農学部教員から構成された学習支援委員会により、学生の学習支援に恒常的に取り組んでいます。

ラーニングサポートスペース(センターフォレスト4階)には大

学院生のTA(ティーチングアシスタント)が常駐しており、授業の不明点やレポートの書き方、研究室の選び方など、学生の質問や要望に応じて相談・アドバイスを行います。農学部自習室(第一校舎2号館1階)には、辞書や参考文献もあり、個人やグループで自由に利用することが可能です。

[農学部学習支援制度]

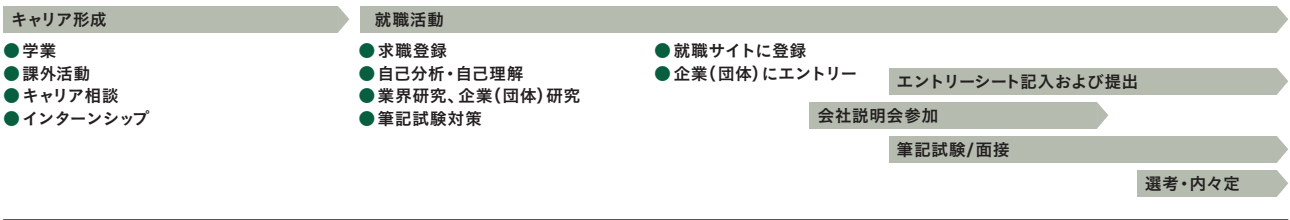
1. 入学前課題	学科別入学前課題の提出(特別入試入学者対象)
2. 入学前準備講座	高校レベルの英語・理科(生物・化学)の復習
3. オフィスアワー	専任教員の各研究室で実施



明治大学の就職支援・資格取得

受験生の皆さんは、大学入学後は勉学や課外活動に打ち込むだけでなく、「10年後、20年後、将来的にどんな人生を送りたいか」を考えるのも大切なことです。明治大学では、キャリア相談や、就職ガイダンスなど、就職支援にも力を入れています。

4年間のキャリアデザイン



キャリアデザインガイダンス	【ガイダンス】 進路・就職ガイダンス(年3回) 公務員ガイダンス インターンシップ準備講座 推薦制度ガイダンス	【自己理解系】 自己分析講座
Meiji Job Trial		【業界・企業理解系】 業界・仕事理解セミナー 公務員業界研究セミナー 工場・事業所見学会 内定者学生との懇談会 学内OB・OG懇談会
Meiji Challenge Program	【選考対策系】 エントリーシート対策講座 筆記試験対策講座 面接対策講座/模擬面接会 グループディスカッション練習会	RESTARTプログラム

資格という「強み」を活かそう

明治大学には、各種資格を取得するための資格課程が設置されていて、農学部生も各課程に登録し、必要な単位を修得することで資格を取得できます。また、そのほかに農学部を卒業することで得られる資格・受験資格等もあります。

[課程別 明治大学に設置されている資格課程の種類]

課程名称	学科	取得できる免許状・資格
教職課程	農学科	中学校教諭一種免許状「理科」、 高等学校教諭一種免許状「理科」「農業」
	農芸化学科	中学校教諭一種免許状「理科」、 高等学校教諭一種免許状「理科」「農業」
	生命科学科	中学校教諭一種免許状「理科」、 高等学校教諭一種免許状「理科」
	食料環境政策学科	中学校教諭一種免許状「社会」、高等学校教諭一種免許状「地理歴史」「公民」「農業」
学芸員養成課程	各学科	学芸員
社会教育主事課程	各学科	社会教育主事 ^{※1}
司書課程	各学科	司書
司書教諭課程	各学科	司書教諭 ^{※2}

※1 社会教育主事の資格を得るには、修了後1年以上社会教育主事補の職に就く必要があります。 ※2 司書教諭の資格は、教員免許状を有する者にのみ、その効力が生じます。



[資格別 農学部で取得できる資格・受験資格等]

資格名称	学科	資格取得方法
測量士補	農学科	卒業後、申請することで資格が取得できます [※]
甲種危険物取扱者	農芸化学科	受験資格
化学分析技能士		受験資格
ペット栄養管理士		受験資格
飼料製造管理者		任用資格
毒物劇物取扱責任者		任用資格
食品衛生監視員	農芸化学科	任用資格 [※]
食品衛生管理者		任用資格 [※]

※ 所定の科目の修得が必要です。

入試情報

■ 自己推薦特別入学試験

明治大学農学部では、各学科の教育理念に強い関心と理解をもち、将来の可能性を期待できる個性や資質をもつ者を募集するため、自己推薦特別入学試験を実施します。このような条件を満たし、筆記試験では評価できない能力を有する者の積極的な応募を期待します。

学科	募集人数
農学科・農芸化学科・生命科学科・食料環境政策学科	各学科10名

〈 出願資格 〉

- a. 明治大学農学部志望学科を専願とし、合格の場合、入学が確約できる者。^(※)
b. 以下の1・2のいずれかの条件を満たす者。

※ただし、食料環境政策学科へ出願する者は、地域農業振興特別入学試験への出願ができるものとす。

1 公募生A（学科により異なります）

次に掲げる(ア)～(エ)のいずれかを満たし、かつ、各学科の要件①または②の条件を満たす者。^(注1)

(ア) 2025年4月1日から2026年3月31日までに高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)もしくは中等教育学校を卒業または卒業見込みの者。
※明治大学付属高等学校(明治・中野・八王子)からも出願可能。

(イ) 2025年4月1日から2026年3月31日までに高等専門学校の第3学年を修了または修了見込みの者。

(ウ) 2025年4月1日から2026年3月31日までに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程もしくは相当する課程を有するものとして認定もしくは指定した在外教育施設の当該課程を修了または修了見込みの者。

(エ) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを、2025年4月1日から2026年3月31日の間かつ文部科学大臣が定める日以後に、修了または修了見込みの者。

農学科	農芸化学科
① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。 ^(注2) ② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者 ^(注3) で、 <u>全体の学習成績の状況が3.5以上の者。</u> ^(注2)	① 全体の学習成績の状況が4.3以上の者。 ^(注2) ② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者 ^(注3) で、 <u>全体の学習成績の状況が4.0以上の者。</u> ^(注2)
生命科学科	食料環境政策学科
① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。 ^(注2) ② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者 ^(注3) で、 <u>全体の学習成績の状況が3.5以上の者。</u> ^(注2)	① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。 ^(注2) ② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者 ^(注3) で、 <u>全体の学習成績の状況が3.5以上の者。</u> ^(注2)

※ 学業以外の優れた活動歴では特に研究発表・懸賞論文分野の実績のある者を重視します。

■ 地域農業振興特別入学試験

地域農業振興に対する強い意志、斬新な発想、そして具体的プランと行動力を持ち、地域農業振興という課題に対して、本学科で学んだ知識・経験をいかし、将来は自ら地域農業振興のリーダーとして仲間を巻き込みながら取り組む能力と志を有する者を募集します。

学科	募集人員
食料環境政策学科	9名

〈 出願資格 〉

- 次の①～③の全てに該当する者
①地域農業振興に深い関心を持ち、将来、地域の農業振興を担うリーダーとして活躍する事を志す者。
※詳しくは、入学試験要項記載の実施目的や求める資質などを参考にしてください。
※また、食料環境政策学科では「自己推薦特別入学試験」「指定校推薦入学試験」も実施しています。それぞれの入学試験は趣旨や出願資格が異なりますので、特別入学試験を利用して受験を希望する者は両方の要項を熟読し、違いや内容をよく確認したうえで出願してください。
②明治大学農学部食料環境政策学科を専願とし、合格の場合、入学が確約できる者。
ただし、自己推薦特別入学試験において食料環境政策学科への出願ができるものとする。
③次に掲げる(ア)から(オ)のいずれかを満たす者。
(ア)高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)もしくは中等教育学校を卒業した者
または2026年3月31日までに卒業見込みの者。
(イ)高等専門学校の第3学年を修了した者または2026年3月31日までに修了見込みの者。

■ その他特別入学試験

農学部では下記の特別入学試験も実施しています。詳細については各入学試験要項をご確認ください。

- スポーツ特別入学試験 ● 外国人留学生入学試験

- (注1) 公募生A各学科要件①②について
①の要件を満たす者で、在学中に学業以外に優れた活動歴がある者は、②として出願することもできます。入学志願票で選択してください。
(注2) 学習成績の状況について
出願時点において提出可能な最新の調査書における全体の学習成績の状況です。
※学校の制度やカリキュラムにより最終学年(3年生)の1学期または前期までの成績が記載されない場合は、2年生終了時までの成績が記載された調査書における全体の学習成績の状況とします。
(注3) 学業以外の優れた活動歴について
高等学校(中等教育学校の場合は後期課程)在学中に、特筆すべき優れた能力を恒常的に発揮した者(ただし、スポーツ競技は除く)で、それを具体的に・客観的に証明する資料(証明書・作品・記事・書籍等)を提出可能な者。(参考資料として自作の資料を添付することは可能ですが、自作資料のみの提出は不可です。)

2 公募生B（帰国生/全学科共通）

次のa～cの条件をすべて満たしている者。

- a 日本国籍を有する者
b 外国において、学校教育における12年の課程を2025年4月1日から2026年3月31日までに修了した者または修了見込みの者。
※日本での修学歴がある場合、最終学年を含め継続して2学年以上は外国の高等学校に在籍し、かつ修了した者または修了見込みの者。
※「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」とは、「外国の正規の学校教育における12年目の課程を修了した者」という意味となります。修了した課程が正規の学校教育であるか、何年目の課程であるかはそれぞれの国の大使館等にお問い合わせください。
※「国際的な評価団体(WASC、ACSI、NEASC、CIS、Cognia、COBIS)の認定を受けたインターナショナルスクール等の12年の課程を2025年4月1日から2026年3月31日までに修了した者または修了見込みの者を含む。
※在外教育施設で修学した場合は、「公募生A」の出願資格を参照してください。
c 保護者の海外在住に同伴し、上記a～bの要件に該当するに至った者。

出願期間			
第一次選考	2025年9月1日(月)～9月4日(木)		
第二次選考	2025年9月25日(木)～10月1日(水)		
入学試験日	試験科目	合格発表日	
第一次選考	－	2025年9月25日(木)	
第二次選考	2025年10月11日(土)	2025年11月5日(水)	

学科	2025年度				2024年度			
	第一次選考		第二次選考		第一次選考		第二次選考	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
農学科	30	15	14	9	19	14	12	9
農芸化学科	31	13	12	12	28	15	15	11
生命科学科	23	16	16	11	24	14	13	10
食料環境政策学科	21	11	11	8	23	14	13	8

- (ウ) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程もしくは相当する課程を有するものとして認定もしくは指定した在外教育施設の当該課程を修了した者または2026年3月31日までに修了見込みの者。
(エ) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを、文部科学大臣が定める日以後に、修了した者または2026年3月31日までに修了見込みの者。
(オ) 高等学校卒業程度認定試験(旧大検)を合格した者または2026年3月31日までに合格見込みの者で、2026年3月31日までに18歳に達する者。

出願期間								
第一次選考		2025年9月1日(月)～ 9月4日(木)						
第二次選考		2025年9月25日(木)～ 10月1日(水)						
	入学試験日	試験科目	合格発表日					
第一次選考	－	●書類選考	2025年9月25日(木)					
第二次選考	2025年10月18日(土) ※受験者数によって、10月19日(日)に実施することもあります。両日予定を空けておいてください。	●総合面接 (プレゼンテーション＋面接)	2025年11月5日(水)					
学科	2025年度		2024年度					
	第一次選考		第一次選考					
	第二次選考		第二次選考					
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
食料環境政策学科	21	8	8	3	15	7	7	5

※各入学試験について、内容が変更となる場合がありますので、詳細は必ず入学試験要項(ホームページ)で確認してください。
※入学試験要項および出願書類は大学ホームページよりダウンロードできます。公開時期は入学試験により異なります。

学部別入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	試験時間
農学科	84名	国語、数学、理科 (3教科4科目から2科目選択)	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	1科目 150点 計300点	120分
農芸化学科	83名		「数学」(数学Ⅰ～Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)		
			「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)		
生命科学科	91名	外国語(1科目選択)	「英語」(英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ)、「ドイツ語」、「フランス語」	150点	60分
合計(3科目)				450点	

食料環境 政策学科	79名	国語／地理歴史、 公民、数学、理科 (国語を必須、他の4教科 7科目中から1科目選択)	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	1科目 150点 計300点	120分
			「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、政治・経済」		
			「数学」(数学Ⅰ～Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)		
			「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)		
		外国語(1科目選択)	「英語」(英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ)、「ドイツ語」、「フランス語」	150点	60分
合計(3科目)				450点	

出願期間(消印有効)	入学試験日	合格発表日
2026年1月6日(火)～1月26日(月)	2026年2月15日(日)	2026年2月22日(日)

学科	2025年度			2024年度			2023年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	894	243	3.7	1049	266	3.9	912	275	3.3
農芸化学科	747	193	3.9	860	201	4.3	773	232	3.3
生命科学科	1380	308	4.5	1060	257	4.1	1123	304	3.7
食料環境政策学科	952	186	5.1	1037	186	5.6	1008	217	4.6

全学部統一入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	時限	試験時間
農学科	3科目： 15名 英語4技能 3科目： 5名	3科目 方式	外国語	「英語」(英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ)、「ドイツ語」、「フランス語」から1科目選択	100点	1時限 60分
			理科	「物理」(物理基礎・物理)、「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)から1科目選択	100点	3時限 60分
			●下記の2教科2科目のうちから1科目選択。2科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。			
農芸 化学科	3科目： 15名 英語4技能 3科目： 5名	英語 4技能 3科目 方式	国語	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	100点	2時限 4時限 60分
			数学	「数学」(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)	100点	2時限 4時限 60分
			合計(3科目)			
生命 科学科	3科目： 10名 英語4技能 3科目： 5名	英語 4技能 3科目 方式	◇外国語	◇英語4技能資格・検定試験のスコアが所定の基準を満たす者のみ出願可能。1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお、1時限目外国語を受験した場合でも、その得点は利用しない。	100点	－ － －
			理科	「物理」(物理基礎・物理)、「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)から1科目選択	100点	3時限 60分
			●下記の2教科2科目のうちから1科目選択。2科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。			
食料 環境 政策 学科	3科目： 5名 英語4技能 3科目： 3名	3科目 方式	国語	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	100点	2時限 60分
			地理歴史、公民、理科	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、政治・経済」、「物理」(物理基礎、物理)、「化学」(化学基礎、化学)、「生物」(生物基礎、生物)から1科目選択	200点 (100点 ×2)	3時限 60分
			数学	「数学」(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)	100点	4時限 60分
			合計(3科目)			
			◇外国語	◇英語4技能資格・検定試験のスコアが所定の基準を満たす者のみ出願可能。1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお、1時限目外国語を受験した場合でも、その得点は利用しない。	100点	－ － －
		英語 4技能 3科目 方式	●下記の5教科9科目のうちから2科目選択。3科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。			
			国語	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	200点 (100点 ×2)	2時限 3時限 4時限 60分
			地理歴史、公民、理科	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、政治・経済」、「物理」(物理基礎、物理)、「化学」(化学基礎、化学)、「生物」(生物基礎、生物)から1科目選択	200点 (100点 ×2)	2時限 3時限 4時限 60分
			数学	「数学」(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)	200点 (100点 ×2)	2時限 3時限 4時限 60分
			合計(3科目)			

出願期間(消印有効)	入学試験日	合格発表日	試験会場
2026年1月6日(火)～1月16日(金)	2026年2月5日(木)	2026年2月12日(木)	東京(本学キャンパス)、神奈川(本学キャンパス)、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡

学科	2025年度			2024年度			2023年度		
	受験者数 ^{※1}	合格者数 ^{※1}	競争率 ^{※1}	受験者数 ^{※1}	合格者数 ^{※1}	競争率 ^{※1}	受験者数 ^{※1}	合格者数 ^{※1}	競争率 ^{※1}
農学科	422 / 193	97 / 32	4.4 / 6.0	464 / 140	95 / 29	4.9 / 4.8	346 / 159	86 / 22	4.0 / 7.2
農芸化学科	352 / 158	82 / 26	4.3 / 6.1	384 / 167	78 / 27	4.9 / 6.2	274 / 161	63 / 28	4.3 / 5.8
生命科学科	457 / 280	82 / 36	5.6 / 7.8	398 / 164	74 / 32	5.4 / 5.1	358 / 153	69 / 21	5.2 / 7.3
食料環境政策学科	346 / 257	82 / 39	4.2 / 6.6	241 / 173	56 / 28	4.3 / 6.2	210 / 163	32 / 24	6.1 / 6.8

※1 左の数字は3科目方式、右の数字は英語4技能3科目方式。

大学入学共通テスト利用入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	備考
農学科	12名	国語	『国語』	200点	
		外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』から1科目	200点	『英語』は、リーディング100点を150点、リスニング100点を50点にそれぞれ換算し、計200点とする。
農芸化学科	12名	理科	『物理』、『化学』、『生物』、『地学』から1科目	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績とする。
●下記の科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。					
生命科学科	15名	数学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		理科	『物理』、『化学』、『生物』、『地学』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第2解答科目の成績とする。
合計(4科目)				800点	
食料環境 政策学科	16名	国語	『国語』	200点	
		外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』から1科目	200点	『英語』はリーディング100点、リスニング100点とする。
		●下記の科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。			
		地理歴史	『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。「地理歴史」「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
		公民	『公共、倫理』、『公共、政治・経済』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。「地理歴史」「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
		数学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		理科	『物理』、『化学』、『生物』、『地学』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
合計(3科目)				600点	

出願期間(消印有効)	入学試験日(大学入学共通テスト)	合格発表日
2026年1月6日(火)～1月16日(金)	2026年1月17日(土)・1月18日(日)	2026年2月12日(木)

学科	2025年度			2024年度			2023年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	522	190	2.7	631	192	3.3	516	207	2.5
農芸化学科	526	177	3.0	526	186	2.8	396	156	2.5
生命科学科	1065	268	4.0	839	331	2.5	674	268	2.5
食料環境政策学科	458	155	3.0	442	157	2.8	388	128	3.0

※学部別入学試験・全学部統一入学試験・大学入学共通テスト利用入学試験について、詳細は一般選抜要項(明治大学ホームページにて11月上旬公開予定)をご確認ください。

Q&A

学部別入学試験において1時限に2科目を受験することになっていますが、時間配分はどのようにすれば良いでしょうか。

Answer 複数科目が合冊された試験冊子と2科目分のマークシートを配付しますので、その場で受験科目を2科目選択してもらいます。1時限は120分ありますので、選択した2科目の時間配分については各自で調節してください。(食料環境政策学科は国語が必須)

化学や生物を受験科目として選択していないため、大学に入ってから授業についていけないか不安です。

Answer 農学部理系3学科の授業では化学や生物の基礎知識が必要になりますが、入学後に化学や生物が未履修の人にもサポート体制を用意しています。不安がある方も努力次第で授業についていくことは十分可能です。

明治大学農学部がわかる 9つのポイント

学科・科目

自然科学+社会科学+教養



4学科それぞれの
アプローチ

農場実習

土に触れて感じる



全学科で
農場実習

先端研究施設

研究の幅が大きく広がる



全国有数の
教育研究施設

農学科

「いのち」を育む現場で学ぶ



食料生産・環境の
課題解決

農芸化学科

バイオテクノロジーを駆使



生活に密着した
課題を解決

生命科学科

地球上の生命現象を追究



分子・遺伝子
レベルで解明

食料環境政策学科

農学+現場体験



社会科学で
解き明かす

国際・留学

学部独自の国際交流



世界課題を
体感する

進路

幅広い業種・機関で活躍



大学院生への
支援充実

詳しくはこちらを**CHECK!**

受験生のための学部選択ガイド Step into Meiji University

<https://www.meiji.ac.jp/stepinto/agri>



@meijixam

一人ひとりにぴったりの入試やイベントの情報を
お知らせ。LINEだけのイベントもやってるよ!!



登録してくれた?

● 明治大学入試総合サイト

<https://www.meiji.ac.jp/exam/>

